

# 経営アカデミー2021

「時代を捉え、意識を変え、行動を変える学びの場」




公益財団法人 日本生産性本部

<https://k-academy.jp/>



## 目次

- 1 知の総合化を目指して
  - 2 経営アカデミー・コース一覧
  - 4 経営アカデミーとは
  - 6 特色あるコースカリキュラム
  - 8 プログラムの流れ
  - 9 広がりのあるプログラム
  - 10 各界で活躍する経営アカデミー・マスター
- 
- 12 トップマネジメント・コース
  - 14 経営戦略コース
  - 16 技術経営コース
  - 18 組織変革とリーダーシップコース
  - 20 マーケティング戦略コース
  - 22 生産革新マネジメントコース
  - 24 人事革新コース
  - 26 経営財務コース
  - 28 事業変革イノベーションコース
  - 30 イノベーション・デザインコース
  - 32 修了後も続くネットワークと学びの場
  - 33 ご派遣企業一覧
- 

## ～知の総合化を目指して～



いつの世にも企業家にとって大事なことは、

(1) 様々な議論や現象の背後にある本質を考えることであり、(2) その本質を概念化、理論化することによって、論理的納得性をもたせ、(3) それらを現実に応用する方法論を開発することである。

このようなプロセスは組織内外の知的、人的ネットワークを総動員し、知の総合化を図らなければ達成できない。

経営アカデミーは、1965年の創設以来55年以上にわたり、日本における最高の学府と産業界のトップが協力し、各社の中核人材による多様な視点から侃々諤々の議論を通して学習、研究の機会を提供してきた。単に高度な知識を得る場ではなく、異業種の人達はその経験をベースに、一つの理論、コンセプトにまとめ上げ、強い決意のもと勇気を持って実践していく、まさに知識創造の「場」である。このような「場」こそ企業人が集う真のビジネス・スクールと言える。多くの企業人の参加を期待する。

経営アカデミー名誉学長  
一橋大学 名誉教授

野中郁次郎

経営アカデミー学長  
慶應義塾大学 名誉教授

神原清則

# 2021年度 経営アカデミー・コース一覧

<コース委員長>

トップマネジメント・コース

経営戦略コース

技術経営コース

組織変革とリーダーシップコース



松本 正義  
住友電気工業(株)  
取締役会長



松崎 正年  
コニカミノルタ(株)  
取締役会議長



堤 和彦  
三菱電機(株)  
特任技術顧問



山村 明義  
東京地下鉄(株)  
代表取締役社長

	コース名	実施要領 (日程)	主な対象
マネジメント・リーダー養成	トップマネジメント・コース	2021年7月～12月	取締役、執行役員、事業部長、部長
		水曜日【毎週】 18:00～20:30	
		合宿4回(国内3回、海外調査1回)	
	経営戦略コース	2021年6月～2022年3月	部長、課長(全職種)
	火曜日【月3～4回】 18:20～20:50		
	合宿2回		
技術経営コース	技術経営コース	2021年6月～2022年2月	技術部門、研究・開発部門の 部長・課長・リーダー
		水曜日【月2回】 10:00～17:00	
	合宿3回		
組織変革とリーダーシップコース	組織変革とリーダーシップコース	2021年5月～2022年2月	部・課・プロジェクトチーム等の 組織運営を行うリーダー
		水曜日【月2～3回】 18:20～20:50	
		合宿3回	
プロフェSSIONナル・リーダー養成	マーケティング戦略コース	2021年6月～2022年2月	マーケティング・営業部門の部長、 課長、リーダー、戦略スタッフ
		月曜日【月3～4回】 18:20～20:50	
		合宿3回	
	生産革新マネジメントコース	生産革新マネジメントコース	2021年5月～2022年2月
木・金曜日【原則月1回】 10:00～17:00			
	合宿4回(国内3回、海外調査1回)、フィールドワーク1回		
人事革新コース	人事革新コース	2021年6月～2022年2月	人事部・人材開発部門のマネジャー、 リーダー、戦略スタッフ
		木曜日【月2～3回】 14:00～20:00	
	合宿3回(国内2回、海外調査1回)		
経営財務コース	経営財務コース	2021年6月～12月	財務、経理、IR、リスクマネジメント、 企画、管理部門のマネジャー、リーダー
		木曜日【月3～4回】 18:20～20:50	
		合宿3回	
リーダー養成・イノベーション	事業変革イノベーションコース	2021年6月～12月	事業責任者(執行役員、部長、マネジャー)、 企画・グループ管理・監査部門の責任者、 戦略スタッフ
		【月2～3回】 18:20～20:50	
		合宿2回	
イノベーション・デザインコース	イノベーション・デザインコース	2021年4月～7月	中堅・若手リーダー
		隔週【全16日】 9:30～17:00	
		合宿2回	

※参加費に含まれないもの ● 合宿費 (イノベーション・デザインコースを除く：国内合宿1回当たり3～7万円程度) ● 海外調査費 (トップマネジメント・コース：40万円程度、人事革新コース、生産革新マネジメントコース：30～35万円程度) ● ビジネスゲーム使用料 (経営財務コースのみ：1万円程度) ● グループ研究の図書・資料代 ● 丸の内教室通学、合宿、企業見学・インタビュー等の交通費 ● その他、個別に追加発生する費用

マーケティング戦略コース

生産革新マネジメントコース

人事革新コース

経営財務コース



金井 政明  
(株)良品計画  
代表取締役会長



木股 昌俊  
(株)クボタ  
代表取締役会長



柄澤 康喜  
三井住友海上火災保険(株)  
取締役会長 会長執行役員



柳 良平  
エーザイ(株)専務執行役CFO  
早稲田大学大学院 客員教授

コースの目的・目指す人材像	参加費 ( )内10%税込		詳細
	賛助会員※※	一般	
戦略思考に基づいたビジョンを語り、先頭に立って実践できるトップリーダーの養成	120万円 (132万円)	130万円 (143万円)	P.12~13
※合宿費、海外調査費別			
自社ビジネスのあり方を見直し、次の戦略を深く多面的に考えるリーダーの養成	111万円 (122.1万円)	121万円 (133.1万円)	P.14~15
※合宿費別			
CTO目線で技術を価値化するリーダーの養成	111万円 (122.1万円)	121万円 (133.1万円)	P.16~17
※合宿費別			
人・組織・戦略の視点で組織変革を推進できる次世代リーダーの養成	98万円 (107.8万円)	108万円 (118.8万円)	P.18~19
※合宿費別			
先見性・革新性・戦略性で成熟市場を打ち破るマーケターの養成	98万円 (107.8万円)	108万円 (118.8万円)	P.20~21
※合宿費別			
現場と経営の観点で、ありたい姿を描き、「強い工場」をつくる人材の養成	98万円 (107.8万円)	108万円 (118.8万円)	P.22~23
※合宿費、海外調査費別			
人材マネジメントに革新を起こし、世界で競争力のある強い組織創りをリードする戦略的人事リーダーの養成	98万円 (107.8万円)	108万円 (118.8万円)	P.24~25
※合宿費、海外調査費別			
企業価値の向上をリードするCFO候補の養成	98万円 (107.8万円)	108万円 (118.8万円)	P.26~27
※合宿費別			
トップや現場を巻き込みながら変革に邁進する中核リーダーの養成	125万円 (137.5万円)	135万円 (148.5万円)	P.28~29
※合宿費別			
企業の中で未来を変革するイノベーション・デザインリーダーの養成	67万円 (73.7万円)	77万円 (84.7万円)	P.30~31
※合宿費含む			

※※賛助会員について 会員サービスセンター TEL: 03-3511-4026

日本生産性本部の活動にご賛同・ご協賛いただく賛助会員制度がございます。経営アカデミーのプログラムははじめ事業参加費の割引など各種特典もございますので、ご入会をお勧めいたします。詳細は上記までお気軽にお問合せください。

# 経営アカデミーとは

## 経営アカデミー 55年の歴史 15,000名以上のOB・OGを輩出

経営アカデミーは、1965年に創設された我が国初の本格的なビジネススクール(経営大学院)の1つです。戦後日本の経済復興を推進し、国民生活の向上を図る目的で設立された日本生産性本部の10周年記念事業として、スタートしました。

以来55年にわたり、産業界からの支持をいただき、15,000名以上の修了者(経営アカデミー・マスター)を輩出。多くの方が企業のトップ、産業界のリーダーとして活躍されています。また、修了されたOB・OGの層の厚さは他の長期経営人材育成プログラムを圧倒し、リーディングプログラムとしての役割を果たし続けています。

※修了者には、『経営アカデミー・マスター』の称号が付与されます(全日本能率連盟登録資格称号第14号)。

これからも当アカデミーは、企業の実践力と学界の最先端理論がぶつかり合う創発の場として、生涯役立つ人間力の向上を目指し、構想力、実現力、革新力を兼ね備えた人材を育成し、組織や業界の枠を越えた人的ネットワークの形成と充実を図るべく、進化を続けて参ります。

「多難な時代に直面して、これからの日本経済の発展に真に応えうるような人材を、意欲的に開発育成していくことが、このアカデミーを開設する最大の目的であります。」(設立趣意書より)

### 運営幹事企業

産学協同の場である経営アカデミーは、参加企業の人事部門責任者の方に運営幹事を委嘱し、企画・運営にご参画いただいております。運営幹事会では、旬のテーマについて第一人者と運営幹事との意見交換も定期的に行っております。

アサヒクオリティアンドイノベーションズ(株)	コニカミノルタ(株)	日清オイリオグループ(株)
NECマネジメントパートナー(株)	(株)小松製作所	日本水産(株)
ENEOSホールディングス(株)	(株)ジェーシービー	日本ユニシス(株)
花王(株)	住友大阪セメント(株)	(株)乃村工藝社
キッコーマン(株)	中外製薬(株)	三井金属鉱業(株)
(株)共和電業	東京センチュリー(株)	
キョーリン製薬ホールディングス(株)	東京地下鉄(株)	



1965

科学的経営の導入

経済成長

事業拡大 — 成長のマネジメント

1991

バブル崩壊

資産圧縮・調整 —  
3つの過剰  
(雇用、設備、債務の圧縮)

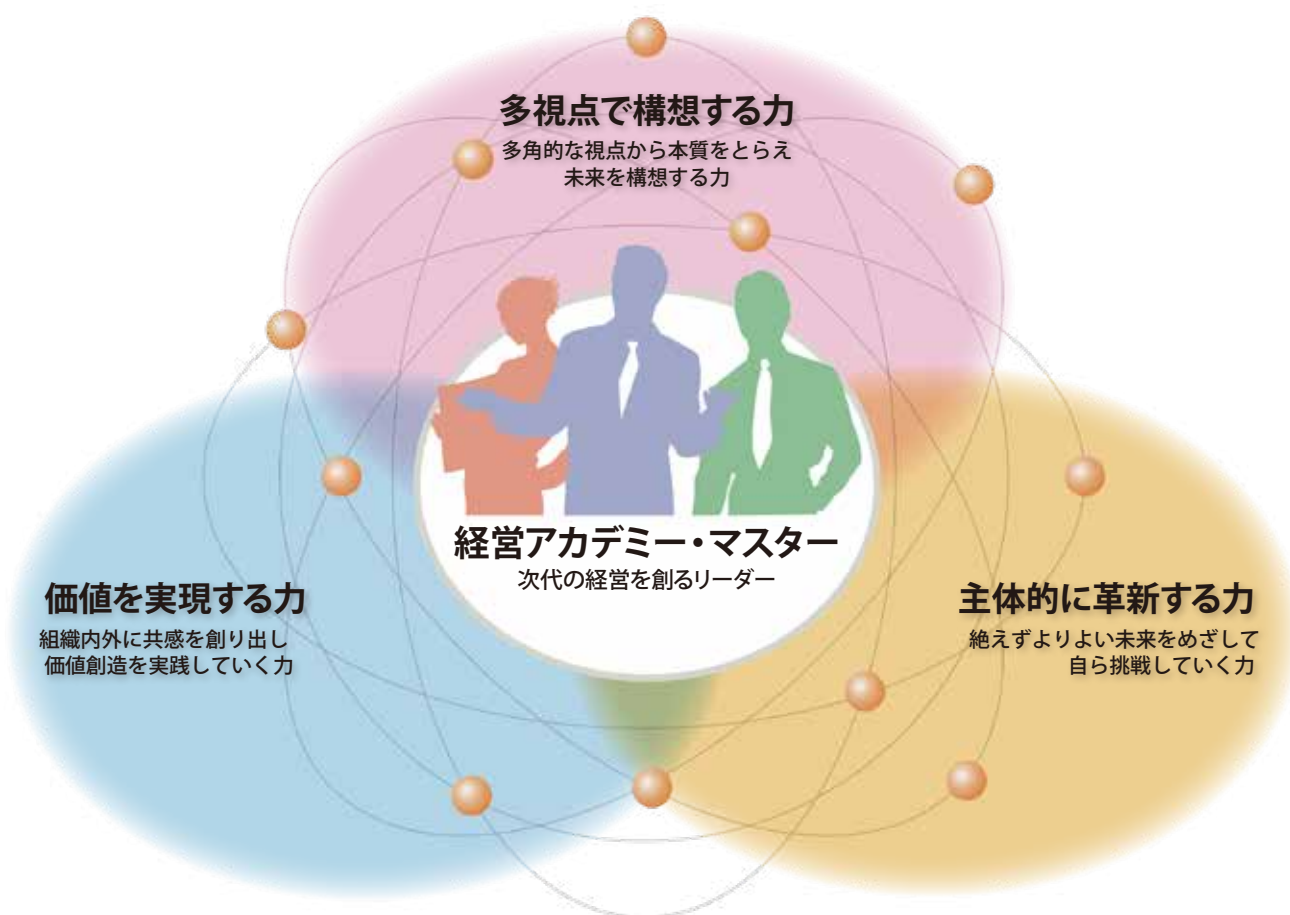
## 経営アカデミーが目指す経営人材

今日、企業には、大きく二つの挑戦が突きつけられています。SDGsや様々な社会問題への対応が、企業経営において中心的なテーマとなっています。また、デジタル化の大きな流れは、企業の垣根を越えて飛躍的に生産性を高める機会と期待されています。

経営アカデミーは、このような大きな時代の変化の中で、自ら課題を設定し、仮説を立て、多様なステークホルダーを巻き込みながら、主体的に価値を創造していく行動力あるビジネスリーダーの養成を目指します。

### 「多視点で構想する力」「価値を実現する力」「主体的に革新する力」

この3つの力を兼ね備え、次代の経営を創っていくことのできるリーダーです。



時代を捉え、意識を変え、行動を変える学びの場

リーマンショック

Industrie4.0

Society5.0

SDGs

新型コロナ



VUCA 時代

社会課題が経営の中心に——  
人口減少、超高齢社会、SDGs  
ESG 投資、AI、DX、IoT

2021

2045

# 特色あるコースカリキュラム

(詳細は、経営アカデミー WEB サイト <https://k-academy.jp/> をご覧ください)

講義とグループ研究を並行して進めることで、体系的な学習と実務の往復を促し、自己課題フィードバックにより実践へと橋渡ししていきます。



1.

実践につながる講義と演習



2.

本質を追究するグループ研究



3.

自己課題フィードバック

## 1 実践につながる講義と演習

経営アカデミーは産業界自らの問題意識によって設立されたビジネススクールです。この趣旨に共鳴した、学界を代表する一流の講師陣ならびに第一線のビジネス・パーソンが指導を行っています。産業界の課題に精通した講師陣による最新の理論と実践事例を学ぶことができます。参加メンバーは、選択講義制度を利用し、所属コース以外にも自己の関心・課題に応じて他コースの講義も受講することができます（詳細は p.8 をご参照ください）。

### 一流の講師陣

産学の垣根なく、テーマに最適な第一人者を講師として招聘しています。

#### ● 第一線の経営者・実務家・ビジネスリーダーによる講演 (過去2年、抜粋、組織・役職は出講時)

新 将命	国際ビジネスブレイン 代表	小林 喜光	三菱ケミカルホールディングス 会長	富山 和彦	経営共創基盤 IGPグループ 会長
小野寺 正	KDDI 相談役	酒巻 久	キャノン電子 社長	松井 忠三	松井オフィス 社長
嘉悦 朗	元横浜マリノス 社長	志賀 俊之	日産自動車 取締役	松本 正義	住友電気工業 会長
金井 政明	良品計画 会長	新貝 康司	元日本たばこ産業 副社長	柳 良平	エーザイCFO、早稲田大学 客員教授
釜 和明	IHI 相談役	数土 文夫	JFEホールディングス 特別顧問	山村 明義	東京地下鉄 社長
柄澤 康喜	三井住友海上火災保険 会長	塚本 建次	昭和電工 特別顧問	林野 宏	クレディセゾン 社長
木川 眞	ヤマトホールディングス 特別顧問	知識 賢治	前日本交通 社長		ほか多数
倉重 英樹	シグママックス 会長	堤 和彦	三菱電機 特任技術顧問		

※ 経営アカデミーのコースの実施方法について対面・集合での実施が難しい場合に備えて、オンライン(Zoom)にて受講いただけるように、整備を進めています。



# 2.

## 本質を追究するグループ研究

### 「コンセプチュアルスキル」と「視野拡大」「共創力」獲得の場

いつの時代でも、経営人材に求められる重要な力は、自ら問題を定義し、その正解のない問題に直面したときに、問題の本質を見極め、個人や組織の持つ可能性を最大限に高めるように考え、最適なソリューションを導き出す力、そして、それを実現していく力であると考えます。

経営アカデミーでは、経営人材に必要なこれらの力（「コンセプチュアルスキル」）を養成し、また、多様な価値観やバックグラウンドをもつメンバーとの徹底した対話や議論を通して、新たな価値を共に創りあげていく「共創力」を身につけるための場として、グループ研究を設けています。

#### グループ研究の流れ

同じコースのメンバーでグループを編成し、各自の問題意識からグループとしてのテーマを設定します。そして、期間を通してそのテーマについて研究活動を展開し、成果を論文にまとめるとともに、研究成果の発表を行います。

#### グループ研究で得られるもの

##### (1) ものごとの本質を見極めるための「コンセプチュアルスキル」

研究のプロセス（問題の発見、課題の設定、仮説構築と検証）を通じて、最適なソリューションを導き出すために必要な、情報を的確かつ批判的に読み取る力、問題を発見し、問いを立てる力、問いに対して論理的に自分の考えを展開する力などを身につけます。

##### (2) 多様な人々との対話や議論を通して、新たな価値を共に創り上げていく「視野拡大」「共創力」

多様なメンバー同士の徹底した対話や議論を通じて、視野を広げ、多様なステークホルダーからの共感や協力を得てものごとを前に進める力、新たな価値を共に創造していく力を獲得します。

##### (3) メンバー同士の信頼関係と絆をベースとしたネットワーク

切磋琢磨して学び合ったメンバー同士の信頼関係と絆をベースとしたネットワークを築くことができます。

	一般的なグループディスカッション（一例）	経営アカデミーのグループ研究
テーマ	（講師から）与えられる	メンバー自ら問いを立てる
対話や議論の方法	メンバーの色々な意見を調整してまとめる	メンバーの異なる視点をぶつけ合い、徹底した対話と議論を行うことにより、考えを発展させていく
アウトプット	分担して調べた事例、データや執筆した文章を統合させる	事例やデータを調べ上げ、その背後にある本質（なぜそうなるのか）を突き詰めた上で、グループのオリジナル・メッセージを作り上げる

#### グループ指導講師とその役割

各グループには、コースの専門知識を有し研究のプロである学識者が、グループ研究の指導講師を担います。グループ指導講師は、研究に関連する知見を提供するとともに、対話や議論に加わり、メンバーに対して徹底した問いかけを行うことにより、視点の変更や思考プロセスの転換など、メンバーが気づきと深い学びを得られるためのサポートを行います。

# 3.

## 自己課題フィードバック

参加者自身が気づきや成長・課題を確認しながら、より多くの成果を得るために、「自己課題フィードバックシート」を導入しています。開講時の現状分析と目標設定、中間時の目標振り返り、終講時の研修成果の業務への落とし込みの策定を通じて、自己の学びを客観的に把握します。これにより、実務での実践が強く意識され、行動変容がもたらされます。経営アカデミー事務局より派遣企業へシートを持参し、状況を直接フィードバックいたします。

※ 事業変革イノベーションコースでは、グループ研究ではなく、個人研究を行い、「変革計画」を作成します。

※ イノベーション・デザインコースでは、「テーマ研究」として事業化価値コンセプトの提案を行い、「デザインノート」を整理します。

# プログラムの流れ

## ◆プログラムの流れ(例)

	1. 講義・演習	2. グループ研究	3. 自己課題
<b>開 講</b>			
5月～6月	世界観・大局観・時代認識を大きな文脈から捉える	<p>コースを通じて同じメンバーによるグループ研究のスタート</p> <p><b>【問題意識の共有】</b> 参加メンバーの問題意識を踏まえ、グループ編成。グループメンバーと共に指導講師と討議し、問題意識の掘り起こしを行う。※テーマ設定に時間をかけ、仮説構築の重要性、切り口の大切さを身につける。</p>	<p><b>【現状分析と目標設定】</b> コース参加にあたっての問題意識・課題整理、コース修了時点の目標を設定する</p> <p>フィードバックシート →派遣企業と共有</p>
7月～9月	実践的なケース研究からエッセンスを学ぶ	<p>講義とグループ研究の往復</p> <p><b>【研究テーマの設定】</b> 第1回合宿で研究テーマを発表。テーマを明確化し、仮説の設定、年間のスケジュールを立案する。その後、文献や事例の調査、グループメンバーと指導講師の徹底した議論の積み重ねを行う。</p>	<p><b>【気づきと学び】</b> 各回の講義での気づきと学びについて毎回フィードバックシートに記述する</p>
10月～11月	現状の課題を明らかにする	<p>講義で学んだ内容の応用を図る</p> <p><b>【研究テーマの深化】</b> 第2回合宿で研究の進捗状況を中間発表。コーディネーターからのレビューコメントを参考に、メンバー間での討議や企業訪問・ヒアリング・データ分析等を実施し、仮説を検証。研究テーマの更なる掘下げを行う。</p>	<p><b>【中間振り返り】</b> 改めて中間時点での自己の振り返りと評価を行い、今後の取り組みについて確認する</p> <p>フィードバックシート →派遣企業と共有</p>
12月～3月	今後の構想を練る	<p>自分たちのオリジナルメッセージ構築へ挑戦</p> <p><b>【報告書(論文)作成】</b> 背後にある本質を突き詰め、理論構築と施策への落とし込みを行う。成果発表に向けた最終的なまとめと報告書論文の取りまとめを集中的に行う。成果発表会には、コーディネーターはじめ派遣企業責任者も参加。</p>	<p><b>【今後の目標設定】</b> 経営アカデミー修了後の目標設定と業務への活用・展開に向けた計画と評価を行う</p> <p>フィードバックシート →派遣企業と共有</p>
<b>終講・グループ研究の成果発表</b>			
<b>【研修成果の実務への落とし込み】</b>			
<b>フォローアップ</b> ※研修後の取組みに関する情報交換			

### ■ 選択講義

コース期間中、経営アカデミー各コースの中から厳選した講義を参加者にご案内いたします。現在直面している経営課題、担当業務における問題意識に沿って、各コースで開催される講義を横断的に自由に選択し、組み合わせることで、ご自身のオリジナルプログラムを作成して受講いただけます。他コースの講義を受講することで、関心の幅を広げ、より多くの参加者と交流を深めることができます。

ご派遣企業の人事部門の方にもご案内しております。社員の方が受講されている経営アカデミーやその講義についてご理解を深めていただくためにも、また自己研鑽を積む場としても活用いただけます。

### ■ スキルアッププログラム

コース期間中、「ファシリテーション」「プレゼンテーション」などのスキルアップのためのプログラムを用意。各コースの参加者が、必要に応じて自由に受講でき、基礎的ビジネススキルの向上にお役立ていただけます。

### ■ ミニMBAプログラム

コース開講前に、「会計・財務」「経営戦略」など、経営に関する基本知識を学べるミニ講座を開催。各コースの参加者が、これから経営アカデミーのプログラムに参加するにあたり、基盤となる知識の習得や自らの知識の整理・確認をすることができます(2020年度は e-learning にてご提供しております)。

## 広がりのあるプログラム

各コースでは、講義・グループ研究に加え、海外調査、企業訪問、工場視察、ワークショップ、フィールドワークなど多彩なプログラムを実施しています。通常の経営アカデミー教室から離れ、参加メンバー間の枠を越えた国内外の多様なビジネス・パーソンとの交流、様々な実践事例に触れることによりアカデミーでの学びを深めます。

### 海外調査

主にアジア各国に赴き、現地ローカル企業、現地で成功している日系・外資企業、政府機関や経済団体などを訪問。現地の市場や時には家庭訪問を実施し、下記のような課題への取り組みのヒントを見いだします。

- 世界、アジアの視点から自社の事業をどう位置付けるか
- 現地ニーズをいかに把握し商品開発にどう活かしていくか
- 現地組織のオペレーション(評価、モチベーション、宗教など)
- 現地幹部社員の育成とリテンション
- グローバルリーダーの育成 ほか



### 海外

中国(上海)	上海象印、中国市場戦略研究所、パナソニック生活文化研究所、無印良品 ほか
ベトナム	TOTO、YKK、味の素、イオン、エースコック、ヤマハ・モーター、ロジテム・ベトナム・No.2 ほか
カンボジア	JETRO プノンペン、サンライズジャパン病院、住友電装、タマホーム、プノンペン経済特区社 ほか
ミャンマー	KDDI、エースコック、ティワラ工業団地、ハニーズ、ミャンマーブルワリー、ミャンマー商工会議所 ほか
シンガポール	HCL、P&G、シーメンス、シンガポール経営大学、ダウ、マイクロソフト ほか
タイ	日産自動車、ヤクルト、ブリヂストン ほか

※ 2019年までの実績です。

### 企業訪問・工場視察・フィールドワーク



人事革新コース：ミットヨ宇都宮工場視察時の様子

テーマで工場視察を実施します。問題を捉える力を養うほか、視察先と自社を比較することで、自社の課題を客観的に見つめ、その解決策を考えることをねらいとしています。

### 〈過去実績〉

■ 視察先 キューピー、高知県大川村、テクノヒロセ(高知県)、展勝地(岩手県)、トヨタL&F、日産自動車、ファンケル、ブリヂストン、ミットヨ、モルガン・スタンレー・グループ、安川電機 ほか多数

### ■ グループ研究インタビュー

AOKI、Google、JR九州、Peach Aviation、SCSK、イケア、サイバーエージェント、サイボウズ、大日本印刷、トヨタ自動車、ファーストリテイリング、富士通マーケティング、ヤッホーブルーイング ほか多数

※ 2019年までの実績です。

# 各界で活躍する経営アカデミー・マスター



杉山 博孝 氏  
三菱地所株式会社  
取締役会長

## 「社員は人間力を兼ね備えた「人財」となれ」

1986年度「人事労務コース」(現:人事革新コース)修了 経営アカデミー・マスター

当社では、社員は企業にとって重要な経営資源であるとの認識のもと、人材を「人財」と表現しています。当社が求める人財像は「人間力」を筆頭に「不動産力」「仕事推進力」「経営力」「グローバル対応力」の5つの力を兼ね備えた人物です。また、個人ではそれぞれの力を最大化しつつ、組織では「個性豊かなプロ集団」として、一体としてパフォーマンスを高めることを目指しています。

そんな人財を育成するための仕掛けの一つが経営アカデミーへの派遣です。参加者には、優秀な先生方や他企業の方々との討論や交流を通じて、企業内研修とは違う刺激を受け、更なる成長を遂げて欲しいと思います。

組織・役職は2020年10月1日現在 氏名50音順・敬称略

氏名	組織	役員以外の所属	参加年度	コース名
阿久津賢二	キョーリン製菓ホールディングス株式会社	常務取締役	2000	経営戦略
明田 浩	株式会社ジェーシービー	代表取締役 兼 専務執行役員	2005	トップ・マネジメント
新井 孝雄	株式会社ヤマト	代表取締役会長	1990	トップ・マネジメント
新井 英雄	三井住友建設株式会社	代表取締役社長	2008	トップ・マネジメント
有元 龍一	日本工営株式会社	代表取締役社長	1981	人事労務
粟井 一樹	株式会社IH I	常務執行役員	1994	組織革新
飯島 幹夫	竹虎ホールディングス株式会社	代表取締役社長	2012	トップ・マネジメント
泉 弘毅	株式会社A I R D O	代表取締役副社長	1991	国際
板橋登志雄	雪印メグミルク株式会社	取締役 常務執行役員	1993	マーケティング
伊藤 健二	株式会社日本政策金融公庫	代表取締役副総裁	2009	トップ・マネジメント
今泉 智幸	株式会社博報堂	取締役専務執行役員	1997	組織革新
今村 俊夫	株式会社東急コミュニティー	取締役会長	1984	プロダクション・マネジメント
植松 孝之	コスモエネルギーホールディングス株式会社	代表取締役常務執行役員	1994	経営財務
江川 敏郎	株式会社みずほ銀行	常務執行役員	1998	マーケティング
榎本 修次	株式会社乃村工藝社	代表取締役社長	2001	経営戦略
大内 宏之	日本コムシス株式会社	執行役員	2001	組織変革リーダー
大草 透	三菱地所株式会社	取締役	1992	経営意思決定
大倉 剛	アサヒグループ食品株式会社	常務取締役	2009	技術経営
逢坂 清治	T D K株式会社	取締役 専務執行役員	1999	経営戦略
大田 勝幸	E N E O Sホールディングス株式会社	代表取締役社長 社長執行役員	1992	経営財務
大滝 郁子	株式会社メンテックカンザイ	代表取締役	2010	組織マネジメントリーダー
大貫 陽一	森永乳業株式会社	専務取締役	1990	経営財務
尾上 秀俊	日清オイリオグループ株式会社	代表取締役 専務執行役員	1994	コーポレート・エコノミックス
奥野 恒久	N T T株式会社	取締役副社長	1996	国際ビジネス
小田島 匠	株式会社ニコン	代表取締役 兼 専務執行役員	1985	人事労務
乙部 俊幸	東京センチュリー株式会社	執行役員	2010	経営戦略
小野澤康夫	三井不動産株式会社	取締役 副社長執行役員	1984	意思決定と経営情報
掛谷 一夫	株式会社N T Tデータビジネスブレインズ	代表取締役社長	2003	経営戦略
片山 浩	三菱地所株式会社	取締役 執行役常務	1986	経営財務
加藤 大輔	藤倉化成株式会社	代表取締役社長	2003	経営戦略
加藤 譲	三菱地所株式会社	取締役	1989	経営財務
金井 広一	エーザイ株式会社	取締役	1995	コーポレート・エコノミックス
金井 洋	一般社団法人生命保険協会	代表理事 副会長	1999	トップ・マネジメント
金木 有一	株式会社オリエンタルランド	取締役 常務執行役員	1994	人事労務
金子 慎	東海旅客鉄道株式会社	代表取締役社長	1993	経営戦略
荻野 雅博	太平洋セメント株式会社	取締役 専務執行役員	1984	経営財務
川合 正敏	東日本旅客鉄道株式会社	常務執行役員	2010	トップ・マネジメント
川島 高博	株式会社リソナホールディングス	取締役	1996	人事労務
河原崎 靖	日清オイリオグループ株式会社	取締役 常務執行役員	1991	プロダクション・マネジメント
木股 昌俊	株式会社クボタ	代表取締役会長	1985	プロダクション・マネジメント
木山 伸泉	日鉄日立システムエンジニアリング株式会社	代表取締役社長	2010	トップ・マネジメント
興野 敦郎	三菱地所株式会社	代表執行役 執行役専務	1990	人事労務
清野 秀樹	三井ホーム株式会社	取締役・専務執行役員	1988	経営意思決定
草野 晋	株式会社A I R D O	代表取締役社長	2005	トップ・マネジメント
栗本 透	日本石油輸送株式会社	代表取締役会長	1988	トップ・マネジメント
黒田 修	古河電気工業株式会社	取締役 兼 執行役員常務	1993	マーケティング
見目 信樹	株式会社日清製粉グループ本社	代表取締役 取締役社長	1991	経営財務
小池 邦彦	東日本旅客鉄道株式会社	常務執行役員	1991	人事労務

氏名	組織	役員のみ所属	参加年度	コース名
小塚 公雄	東京センチュリー株式会社	執行役員	2003	経営戦略
小林 新	日清オイログループ株式会社	取締役 常務執行役員	1995	マーケティング
齊藤 哲彦	LINE Financial株式会社	代表取締役社長 CEO	1994	マーケティング
阪本未来子	東日本旅客鉄道株式会社	常務執行役員	2012	トップ・マネジメント
佐藤 精一	株式会社明治	取締役専務執行役員	1995	マーケティング
佐見 学	アサヒクオリティードイノベーションズ株式会社	代表取締役社長	2010	技術経営
塩見 公彦	藤森工業株式会社	取締役常務執行役員	2005	経営戦略
重山 俊彦	キッコーマンソイフーズ株式会社	取締役会長	1974	マネジリアル・エコノミックス
清水 哲司	N T T インターネット株式会社	代表取締役社長	1990	テクノロジー・マネジメント
白石 善治	富士ソフト株式会社	取締役 常務執行役員	2013	トップ・マネジメント
杉森 務	E N E O S ホールディングス株式会社	代表取締役会長 グループCEO	1985	人事労務
杉山 健博	阪急阪神ホールディングス株式会社	代表取締役社長	1987	マネジリアル・エコノミックス
鈴木 史彦	株式会社日本色材工業研究所	取締役	2011	生産革新マネジメント
鈴木 康公	コスモエネルギーホールディングス株式会社	代表取締役常務執行役員	1995	人事労務
須藤 浩	信金中央金庫	専務理事	2001	経営戦略
田口 徳久	株式会社博展	代表取締役社長	2009	トップ・マネジメント
館野 稔	株式会社共和電業	代表取締役会長 執行役員	2009	トップ・マネジメント
田中 義一	株式会社共和電業	代表取締役社長 執行役員	2011	トップ・マネジメント
田村 詔	サミット株式会社	取締役副社長執行役員	2004	経営戦略
千葉 太	三菱地所株式会社	代表執行役 執行役専務	1989	コンピュータ・マネジメント
柘植 康英	東海旅客鉄道株式会社	代表取締役会長	1980	意思決定と経営情報
寺畑 貴史	株式会社リそなホールディングス	執行役員	2001	経営戦略
徳淵 良孝	日本信号株式会社	取締役副社長	2008	トップ・マネジメント
富岡 徹也	穴吹興産株式会社	専務取締役	2006	トップ・マネジメント
長井 太一	昭和電工株式会社	執行役員	2005	技術経営
長井 幸夫	オエノンホールディングス株式会社	代表取締役会長	1977	マーケティング
仲岡 一紀	京王電鉄株式会社	取締役 専務執行役員	1995	組織革新
中島 隆男	雪印メグミルク株式会社	常務執行役員	2002	経営戦略
中谷 久嗣	N E C ディスプレイソリューションズ株式会社	代表取締役 執行役員社長	2011	経営戦略
永田 充	T D K 株式会社	常務執行役員	1999	経営戦略
中元 政英	株式会社富士通エフサス	取締役常務	2011	トップ・マネジメント
根岸 孝成	株式会社ヤクルト本社	代表取締役社長	1980	人事労務
納 武士	三井金属鉱業株式会社	代表取締役副社長	2014	トップ・マネジメント
野口 幹夫	株式会社リそなホールディングス	取締役兼執行役員	2006	変革マネジメント
早川 和弘	エムケー精工株式会社	取締役 常務執行役員	2010	技術経営
原島 藤壽	カンダホールディングス株式会社	代表取締役社長	2000	経営戦略
原 昌一郎	日本石油輸送株式会社	代表取締役社長	2000	経営戦略
久岡 一史	三井金属鉱業株式会社	取締役 兼 常務執行役員	2012	トップ・マネジメント
日高 一隆	日本リック株式会社	代表取締役社長	2004	トップ・マネジメント
古瀬 良多	株式会社マルエツ	代表取締役社長	1991	マーケティング
古屋 俊秀	東京地下鉄株式会社	常務取締役	2010	トップ・マネジメント
星野 晃司	小田急電鉄株式会社	代表取締役社長	1985	人事労務
堀切 功章	キッコーマン株式会社	代表取締役社長 CEO	1982	マーケティング
増田 理	キリンビバレッジ株式会社	常務執行役員	2004	経営戦略
松田 克也	株式会社明治	代表取締役社長	1990	マーケティング
馬城 文雄	日本製紙株式会社	取締役会長	2002	戦略エグゼクティブ
満倉 達彦	全日本空輸株式会社	取締役 専務執行役員	1991	プロダクション・マネジメント
三津島貴寛	N T T ファイナンス株式会社	常務取締役	1998	経営戦略
見浪 直博	日本たばこ産業株式会社	代表取締役副社長	1993	経営財務
南 孝孝	京王電鉄株式会社	取締役 常務執行役員	1995	事業開発
三宅 貴久	タキロンシーアイ株式会社	取締役 専務執行役員	2012	トップ・マネジメント
村井 淳	東急バス株式会社	取締役 副社長執行役員	1990	マーケティング
森田 謙一	新日本無線株式会社	代表取締役社長	2007	トップ・マネジメント
森田 宏之	日鉄ソリューションズ株式会社	代表取締役社長	2009	トップ・マネジメント
矢島 仁	三菱UFJニコス株式会社	取締役 兼 副社長執行役員	2010	トップ・マネジメント
矢島 良司	株式会社第一生命経済研究所	取締役会長	1988	人間能力と組織開発
安井 卓	リックス株式会社	代表取締役社長	2017	トップ・マネジメント
山崎 孝一	キッコーマン株式会社	代表取締役専務執行役員 CSO	1984	経営財務
山西 哲司	T D K 株式会社	代表取締役 専務執行役員	2001	経営戦略
山村 明義	東京地下鉄株式会社	代表取締役社長	1997	組織革新
山本 昌明	株式会社アルファ	取締役 常務執行役員	2014	マーケティング戦略
山本 護	株式会社京王プラザホテル	代表取締役会長	1998	経営戦略
渡辺 勝	株式会社乃村工藝社	代表取締役会長	1993	トップ・マネジメント

# トップマネジメント・コース

対象：取締役、執行役員、事業部長、部長

開催日程

時期：2021年7月～12月  
 曜日：水曜日【毎週】  
 時間：18:00～20:30  
 合宿：3回及び海外調査1回  
 全日数：30日(合宿込み・海外除く)  
 講義：16コマ、グループ研究：20コマ  
 海外調査：成長するアジア地域のビジネス環境を探る

コースのねらい

1. 多視点構想力 大局観を身につけ、ブレないビジョンを構想する力を養う
2. 共感価値実現力 組織の内外に共感を生み出し、価値創造につなげる人間力を磨く
3. 主体的革新力 自ら先頭に立って継続的に自己革新できる力を強化する

講師陣

■ コース委員長

松本 正義  
 住友電気工業  
 取締役会長



浅羽 茂	早稲田大学ビジネススクール 教授
新 将命	国際ビジネスブレイン代表 (元J&J社長)
安藤 史江	南山大学 教授
内野 崇	学習院大学 名誉教授
加護野忠男	神戸大学 特命教授
金井 政明	良品計画 会長
柄澤 康喜	三井住友海上火災保険 会長
木川 眞	ヤマトホールディングス 特別顧問
倉重 英樹	シグマクシス 会長

酒巻 久	キャノン電子 社長
数土 文夫	JFEホールディングス 特別顧問
西山 茂	早稲田大学ビジネススクール 教授
富山 和彦	経営共創基盤 IGPIグループ会長
松崎 正年	コニカミノルタ取締役会議長
松本 正義	住友電気工業 取締役会長
山田 英夫	早稲田大学ビジネススクール 教授
山村 明義	東京地下鉄 社長
米山 茂美	学習院大学 教授

(過去2年実績)

■ コーディネーター・グループ指導講師



加護野忠男  
 神戸大学 特命教授



内野 崇  
 学習院大学 名誉教授



浅羽 茂  
 早稲田大学ビジネススクール 教授



米山 茂美  
 学習院大学 教授



安藤 史江  
 南山大学 教授

参加メンバーの声 (2019年度)

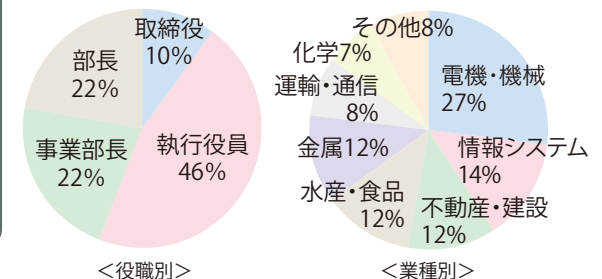
- カリキュラムはとても良くできており、講義(理論)・経営者講話(実践)、グループ研究(他流試合・人脈形成)、海外調査(グローバル視点醸成)、がバランス良く組み込まれ、経営者として必要な資質、総合力を過不足なく効率良く学ぶことができた。今後の成長のためには学んだ理論をどのように実際の業務に取り込むのかを常に意識して組み組んでいきたい。(運輸・部長)
- 本コースを受講してトップ経営者が様々な場面で重要判断するときの覚悟を学んだ。その判断が企業の方向性を決め社員が理解して同じ方向にするために企業理念があり、創業者の熱い思いがあることを知った。講義では経営者が判断するときに必要な分析力、情報収集力の重要性を学んだ。自分の非力さ、不勉強を痛感する機会となった。(電機・執行役員)
- 最も強く感じたことは、経営者が誰になるかは組織にとって非常に重要なことである。その組織が成長するか、衰退するかは経営者次第であるということである。講義を通して自らに足りないと感じたことは、組織変革の力である。他者を説得するためにも、「本質的」「論理的」な思考を身につけて行きたいと考えるようになった。(金属・執行役員)
- 体系的に経営について学習する機会を得ることが出来たが、自らの知識不足を痛感する結果となった。経営者の講話では、経営の真髄をつかみたいと思っていたが、すべての経営者に共通することは、「人間力」「未来を見ようとする力」「意識決定力・判断力」であった。(保険・部長)

■ 2019年度

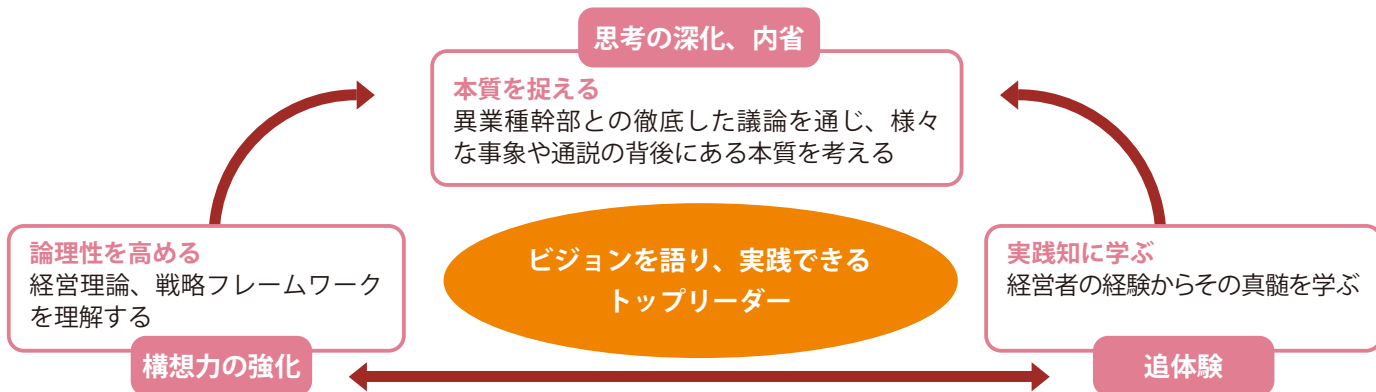
- Aグループ ポーっとやってんじゃねえよ! SDGs  
 ~ SDGsのウマイ取り組み方はあるのか? ~
- Bグループ 「三方よし」の未来 ~日本型持続可能な企業のあり方~
- Cグループ 世界一魅力的な会社 ~令和時代に求められる働きがいとは~
- Dグループ パートナーシップのトリセツ  
 ~プラスサムのパートナー関係に必要なこと~

参加者データ

■ 過去3年実績 (平均年齢51.6歳)



日本を代表する経営者による経営の真髓の伝授、講義やケーススタディを通じた戦略フレームワークの理解、異業種幹部との徹底した議論により、トップリーダーに求められるマネジメント力を磨く



月	テーマ	講義・演習	グループ研究	自己課題
7月	大局的な視点から本質を捉える 	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 世界観、歴史観、文明観を身につける</li> <li>■ 戦略の失敗に学び、トップ判断の重要性を考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ編成</li> <li>グループ研究【1-2】</li> </ul>	自己の振り返りと研修目標の設定  フィードバックシート提出①
8月	経営者の経験と実践知に学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 経営の本質とは何か ～企業変革におけるトップの役割</li> <li>■ リーダーシップのエッセンスとは何か ～勝ち残る企業づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ研究【3-4】 テーマ探索</li> </ul>	各講義の気づきと学びを整理
9月	組織をどういう方向に変えるのか  世界から日本を見る	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 組織変革をどう実践するか ～ありたい姿、あるべき姿から構想する</li> </ul>	グループ研究【8-9】 	
10月	これからの経営を考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 顧客価値とビジネスモデルを考える ～違いをどう創り出していくのか</li> <li>■ ビジネスイノベーション ～儲ける仕組みを考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ研究【10-12】 中間発表</li> <li>グループ研究【13-14】</li> </ul>	中間振り返り  フィードバックシート提出②
11月	リーダーの決断と実践を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 海外(アジア視察)  ベトナム  カンボジア</li> <li>■ 世界・アジアの視点から自社の事業をどう位置付けるか</li> <li>■ アジアの成長市場をどう取り込むか</li> <li>■ 生産拠点・サプライチェーンをどう構築するか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ研究【15-16】 集中討議</li> </ul>	
12月	実践への応用を決意する	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 企業理念を経営に活かすには ～理念による組織運営とモチベーション</li> </ul>	グループ研究【17】	
2022年夏	フォローアップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 研修後の取り組みに関する情報交換</li> </ul>	報告書(論文)作成【18-20】	研修成果の振り返りと実践目標の設定  フィードバックシート提出③

講義：16コマ+選択講義+フォローアップ グループ研究：20コマ

※講義とグループ研究の各コマ数は2020年度実績をもとに表示。プログラムとスケジュールは変更される場合があります。  
 ※2020年度は、新型コロナウイルス感染症発生により、海外視察は実施できませんでした。  
 ※経営アカデミーのコースの実施方法について対面・集合が難しい場合に備えて、オンライン(Zoom)にて受講いただけるように、整備を進めています。



自社ビジネスのあり方を見直し、次の戦略を深く多面的に考えるリーダーの養成

# 経営戦略コース

対象：部長・課長(全職種)

開催日程

時期：2021年6月～2022年3月  
曜日：火曜日【月3～4回】  
時間：18:20～20:50  
合宿：2回  
全日数：38日(合宿込み)  
講義：16コマ、グループ研究：25コマ

コースのねらい

### 1. 現状分析・認識力

自社ビジネスが置かれている競争環境を適切に認識できる力を身につける

### 2. 課題抽出・形成力

自社や担当事業における戦略策定と実行上の課題を明確に見出す力を身につける

### 3. 戦略構築・実践力

利益を生み出すための戦略のあり方を考え、事業特性を踏まえた戦略実践・展開能力を高める

講師陣

### ■ コース委員長



松崎 正年  
コニカミノルタ  
取締役会議長

### ■ コーディネーター



榊原 清則  
経営アカデミー 学長



大滝 精一  
大学院大学 至善館 副学長



網倉 久永  
上智大学 教授

### ■ グループ指導講師



酒井 健  
東北大学大学院 准教授



大木 清弘  
東京大学大学院 准教授



中川 功一  
大阪大学大学院 准教授



松本 陽一  
慶應義塾大学 准教授

- 青島 矢一 一橋大学イノベーション研究センター 教授
- 網倉 久永 上智大学 教授
- 井上 達彦 早稲田大学 教授
- 大滝 精一 大学院大学 至善館 副学長
- 小野寺 正 KDDI 相談役
- 嘉悦 朗 元日産自動車 執行役員
- 木村 尚敬 経営共創基盤 パートナー
- 榊原 清則 経営アカデミー 学長
- 佐々木圭吾 岡山女学園大学 教授
- 富山 和彦 経営共創基盤 IGPIグループ会長
- 中川 功一 大阪大学大学院 准教授
- 長瀬 勝彦 東京都立大学 教授
- 西野 和美 一橋大学大学院 准教授
- 福嶋 路 東北大学大学院 教授
- 松崎 正年 コニカミノルタ 取締役会議長

(過去2年実績)

グループ研究

### ■ 2019年度テーマ

#### Aグループ

「継続的に収益をあげている企業の要因を探る」  
「ビジネス・モデル」の変革に成功し、継続的に収益を上げている企業の因果メカニズムを明らかにする。

#### Bグループ 「リストラを成功に導く経営者の在り方」

成功したリストラと失敗したリストラの差について定性的に研究したうえで、リストラを成功させる経営者の特徴について見出す。

#### Cグループ 「スポーツビジネスに学ぶ未来構築」

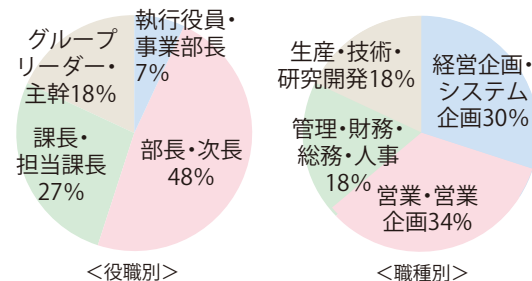
ビジョナリーカンパニーにおいては、未来予測に加え、自ら環境に対して積極的な働きかけを行っていることを、スポーツビジネスを通じて考察する。

#### Dグループ 「人口減少時代における企業戦略」

ダウンサイジングする市場でも成長するための価値を創造できる企業の行動について、ライフイベント業界の取り組みを通じて考察する。

参加者データ

### ■ 過去3年平均 (平均年齢45.4歳)

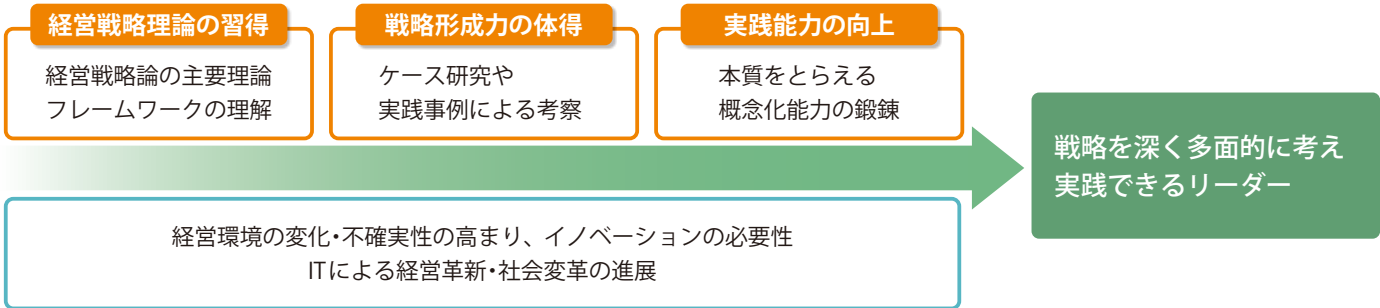


参加メンバーの声

- 講義で教えて頂いた各種理論は、自分の現在の業務で活かせるものであり、企業のケーススタディも自社の事業運営を考える上で非常に参考になった。また、経営者の講話は、企業人として今後の大きな糧を得たと感じた。
- 異なる業種への企業訪問、インタビュー等を通じて、それぞれの企業の戦略に特長があり大変参考になった。研究結果を受けて、自社に照らし合わせたことで、自社の課題を改めて認識することができた。



経営戦略の理論習得にとどまらず、事業特性と競争環境を踏まえた戦略形成を  
実務家(企業トップ)と参加メンバーとともに考え、実践能力を高める



月	テーマ	講義・演習	グループ研究	自己課題
6月	経営戦略の全体像	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 経営戦略を考える上での全体構造を捉え、企業経営に経営戦略が必要な意味を理解する                             <ul style="list-style-type: none"> <li>ー 経営戦略論の全体像</li> </ul> </li> </ul>		自己課題整理、コース修了後の目標設定
	経営戦略の基礎理論・分析手法	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 仮説の設定と検証 (グループ研究の進め方)</li> <li>■ ケース研究</li> </ul>	グループ研究 【グループ編成】 【研究テーマの選定】	
7月		<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 経営戦略論を構成する主要理論、フレームワークを実践的なケース研究をまじえて理解する                             <ul style="list-style-type: none"> <li>ー 競争戦略論(業界の構造分析/差別化/コストリーダーシップ/顧客価値/競争ポジション/製品ライフサイクル)</li> <li>ー ビジネスモデル</li> <li>ー 全社戦略論(事業の定義/多角化/PPM)</li> <li>ー 資源戦略論(保有資源と組織能力構築、イノベーション、組織的知識創造プロセス)</li> <li>ー ケース研究</li> </ul> </li> </ul>	問題意識の共有 研究計画・方針の確認	フィードバックシート提出①  各講義の気づきと学びを整理
8月		<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 日本企業における戦略の策定・展開についての現状、特質、課題を明らかにし、今後のあり方を検討する                             <ul style="list-style-type: none"> <li>ー イノベーションと付加価値獲得の戦略</li> <li>ー 製品の境界を越える/産業構造の転換への対応</li> <li>ー 事業経済性を正しく理解する&lt;リアル経営分析&gt;</li> <li>ー 経営幹部に求められる意思決定のプロセス</li> </ul> </li> </ul>	文献調査、メンバー・グループ指導講師との徹底した議論	各講義の気づきと学びを整理
9月				中間振り返り
10月	日本企業の経営戦略の課題と今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 第2回合宿(2泊3日) グループ研究中間発表</li> </ul>	グループ研究 【中間発表】	
11月	経営のダイナミズム	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 日本企業のトップからリアルな実践論に触れる                             <ul style="list-style-type: none"> <li>ー 経営実践事例</li> <li>ー 事業再生の現場から見た経営戦略</li> </ul> </li> </ul>	インタビュー・調査、仮説研究	フィードバックシート提出②
12月				各講義の気づきと学びを整理
2022年1月	グループ研究テーマの掘り下げ	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 集中活動(1日) 調査の分析とまとめ</li> <li>■ 総括講義</li> </ul>		
2月3月		<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 報告書(論文)作成、発表準備【グループ研究成果発表】</li> </ul>	理論構築と施策への落とし込み	研修成果の振り返り フィードバックシート提出③
	フォローアップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 研修後の取り組みに関する情報交換</li> </ul>		

講義：16コマ＋選択講義＋フォローアップ グループ研究：25コマ

※講義とグループ研究の各コマ数は2020年度実績をもとに表示。プログラムとスケジュールは変更される場合があります。  
※経営アカデミーのコースの実施方法について対面・集合が難しい場合に備えて、オンライン(Zoom)にて受講いただけるように、整備を進めています。



CTO目線で技術を価値化するリーダーの養成

# 技術経営コース

対象：技術部門、研究・開発部門の部長・課長・リーダー

開催日程

時期：2021年6月～2022年2月  
曜日：水曜日【月2回】  
時間：10:00～17:00  
合宿：3回  
講義：21コマ、グループ研究：30コマ

コースのねらい

- 1. 未来志向 5～10年先の社会価値や顧客ニーズの構想
- 2. オープン志向 自社技術、自社経営資源に囚われない発想
- 3. 事業志向 課題解決や収益最大化の方途の追求

講師陣

## ■ コース委員長



堤 和彦  
三菱電機 特任技術顧問  
(元常務執行役開発本部長)

## ■ コーディネーター



榎原 清則  
経営アカデミー学長



寺本 義也  
ハリウッド大学院大学 副学長・教授



延岡 健太郎  
大阪大学 大学院教授



小笠原 敦  
国立大学法人滋賀医科大学 特任教授

## ■ グループ指導講師



安本 雅典  
横浜国立大学大学院 教授



大沼 雅也  
横浜国立大学大学院 准教授



福澤 光啓  
成蹊大学 准教授

## ■ 講義指導講師

- |       |                              |       |                             |
|-------|------------------------------|-------|-----------------------------|
| 青島 矢一 | 一橋大学 教授                      | 中村 善貞 | 富士フイルム<br>イノベーション<br>アーキテクト |
| 川上 智子 | 早稲田大学<br>大学院 教授              | 長平 彰夫 | 立命館大学<br>大学院 教授             |
| 小阪玄次郎 | 上智大学 准教授                     | 西山 茂  | 早稲田大学<br>ビジネススクール<br>教授     |
| 小林喜一郎 | 慶應義塾大学<br>大学院ビジネス<br>スクール 教授 | 林 高樹  | 慶應義塾大学<br>大学院 教授            |
| 清野 裕司 | マップス<br>代表取締役                | 東 信和  | アイディアポイント<br>取締役CIO         |
| 妹尾 大  | 東京工業大学<br>工学院 教授             | 米山 茂美 | 学習院大学<br>教授                 |
| 立本 博文 | 筑波大学 教授                      | 渡部 俊也 | 東京大学<br>未来ビジョン<br>研究センター 教授 |
| 塚本 建次 | 元 昭和電工<br>CTO                |       | (過去2年実績)                    |

グループ研究

## ■ 2019年度テーマ

### Aグループ

「新価値創造におけるオープン・リ・イノベーションの役割」  
成熟化した市場から脱成熟化におけるプロセスを明確化し、脱成熟化を達成させるためには、消費者を含めた社内および社外の共感を作り出すことが必要になると考えた。

### Bグループ

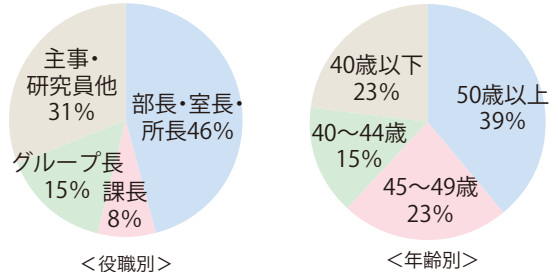
「バリューブースト戦略 ～汎用技術の創発的育成による価値増幅～」  
汎用技術の活用による価値増幅において、川上と川下の企業双方が役割分担しながら「それぞれの価値」を創造し増幅する新たなモデルがありうることを見出した。

### Cグループ

「抑制的環境下における企業のクリエイティブ活動」  
イノベーションに悪影響を及ぼしているものを明らかにした上で、イノベーションの源泉が抑圧される環境下でも創造的成果物を継続的に生み出すメカニズムの解明を試みた。

参加者データ

## ■ 2020年度 (平均年齢45.1歳)



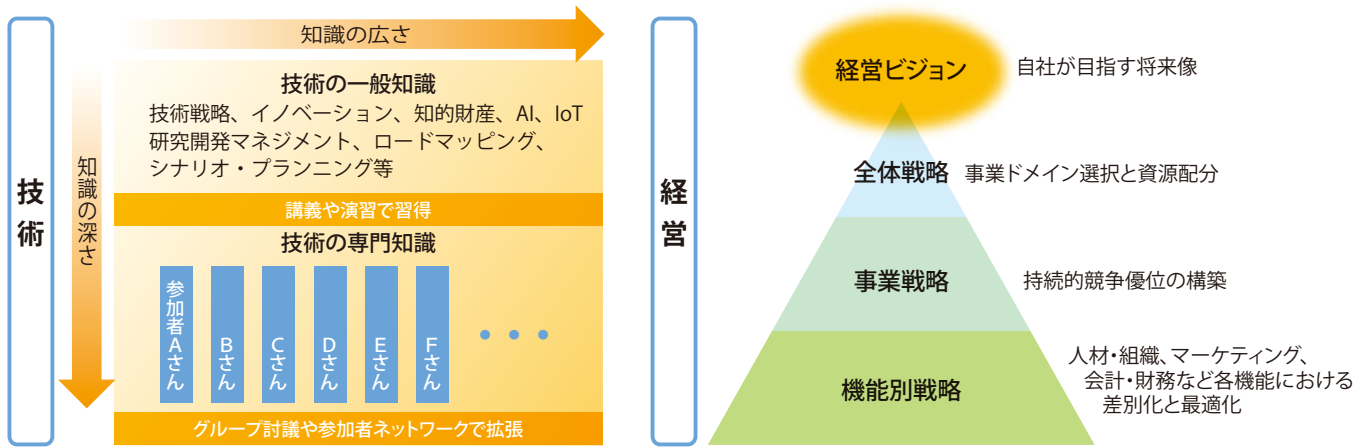
参加メンバーの声

- 異業種の方々と1つのものを作り上げるという体験は非常に新鮮だった。
- 多様な企業から選出されたメンバーとオン・オフで話す機会が沢山あり、通常業務の中では知り得ない知識を増やすことができた。
- 業務とは少し離れたテーマ設定により、自分自身の課題を狭い範囲で考えることなく、10年後を見据えた改革を意識するようになった。

研修目的

社会や企業、組織において「技術」と「経営」の2つの視点から、問題提起・解決や価値創造を考え、実践していく力を練成する

プログラム体系



月	テーマ	講義・演習	グループ研究	自己課題
6月 〜 8月	I 技術経営概論とR&D戦略構築	①技術経営と研究開発マネジメント ②コーポレートR&Dの歴史の変遷と展望 ③経営戦略とビジネスモデル ④経営戦略とイノベーション ⑤技術経営概論		<ul style="list-style-type: none"> <li>現状把握と個人目標の設定</li> <li>各講義の気づきと学びの整理</li> <li>実務展開の検討</li> </ul>
		<b>第1回合宿</b> 講義・演習	グループ研究【1-4】 プレゼンテーションとグループ編成 問題意識の共有と研究テーマの探究	フィードバックシート提出①
9月 〜 10月	II イノベーションと事業創造	⑩コア技術戦略と意味的価値のマネジメント ⑪技術の事業化と競争力強化 ⑫イノベーションと事業展開 ⑬事業創造と競争優位の構築 ⑭新事業創造とR&Dマネジメント ⑮イノベーションの起こし方	グループ研究【5-9】 先行研究の確認と書籍・論文の輪読、議論のベース作り	<ul style="list-style-type: none"> <li>各講義の気づきと学びの整理</li> <li>実務展開の検討</li> </ul>
		<b>第2回合宿</b>	グループ研究【10-11】 【グループ研究中間発表会】	フィードバックシート提出②
11月	III 顧客価値とマーケティング	⑯マーケティングと新市場創造 ⑰ビジネスエコシステム	グループ研究【12-15】 仮説検証及び調査活動1	<ul style="list-style-type: none"> <li>中間振り返り</li> <li>各講義の気づきと学びの整理</li> <li>実務展開の検討</li> </ul>
12月 〜 2022年 2月	IV 知財戦略と研究開発マネジメント	⑱研究開発マネジメント ⑲事業戦略と知財戦略 ⑳AIと意思決定 ㉑企業財務と投資意思決定	グループ研究【16-18】 仮説検証及び調査活動2  グループ研究【19-23】 仮説検証及び調査活動3	<ul style="list-style-type: none"> <li>各講義の気づきと学びの整理</li> <li>実務展開の検討</li> </ul>
		<b>第3回合宿</b> グループ研究【24-26】 仮説検証及調査活動まとめ	グループ研究【27-30】 技術経営コンセプトの論文と発表資料作成 【グループ研究最終発表会】	フィードバックシート提出③
	フォローアップ研修	学び、気づきを自社の業務にどのように活かしていくか、フォローアップします。		

講義：21コマ+選択講義+フォローアップ グループ研究：30コマ

※講義とグループ研究の各コマ数は2020年度実績をもとに表示。プログラムとスケジュールは変更される場合があります。  
 ※経営アカデミーのコースの実施方法について対面・集合が難しい場合に備えて、オンライン（Zoom）にて受講いただけるように、整備を進めています。

人・組織・戦略の視点で組織変革を推進できる次世代リーダーの養成

# 組織変革とリーダーシップコース

対象：部・課・プロジェクトチーム等の組織運営を行うリーダー

開催日程

時期：2021年5月～2022年2月  
 曜日：水曜日【月2～3回】  
 時間：18:20～20:50  
 合宿：3回  
 全日数：32日(合宿込み)  
 講義：18コマ、グループ研究：28コマ

コースのねらい

1. 構想力 顧客の価値観の多様化、デジタル革命など、経営環境の変化を見極め、顧客起点で組織変革を構想する力を養う
2. マネジメント力 自発性やモチベーションの高い組織を実現するマネジメント力を身につける
3. 実践力 自らが主体的に社内外に働きかけ、変革を実現していくリーダーシップを磨く

講師陣

■ コース委員長



山村 明義  
東京地下鉄 代表取締役社長

■ コーディネーター



内野 崇  
学習院大学 名誉教授



佐々木 圭吾  
椋山女学園大学 教授



浅井 浩一  
日本マネジメントケリスト協会 理事長

■ グループ指導講師



竹内 倫和  
学習院大学 教授

■ グループ指導講師



若林 隆久  
高崎経済大学 准教授



岩尾 俊兵  
明治学院大学 専任講師

- 石川 恒貴 法政大学大学院 教授
- 稲山 健司 明治学院大学 教授
- 木川 真 ヤマトホールディングス 特別顧問
- 倉重 英樹 シグマックス 会長
- 酒巻 久 キヤノン電子 社長
- 坂根 正弘 小松製作所 相談役

- 妹尾 大 東京工業大学工学院 教授
- 竹内 規彦 早稲田大学ビジネススクール 教授
- 松本 正義 住友電気工業 取締役会長
- 富山 和彦 経営共創基盤 IGPIグループ会長
- 古川 久敬 九州大学 名誉教授
- 横田 絵理 慶應義塾大学 教授

(過去3年実績)

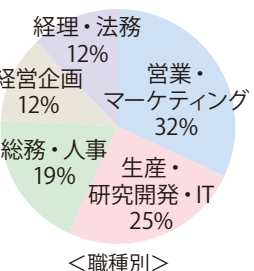
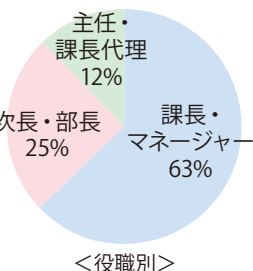
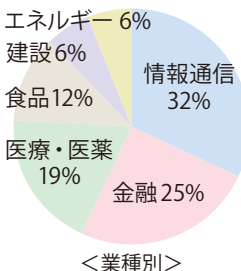
■ 経営と組織の変革ストーリーを紡ぐ人材へ

コロナ禍を経て、テレワーク等が進み、企業では変革の促進と同時に様々な問題も浮かび上がっています。様々な企業の最前線のリーダーによる「リアルな問題意識」を起点に、経営と組織の新たな姿を考えます。

<2019年度テーマ例>

- 「サイコロジカルキャピタルの開発がロールトランジションに及ぼす有効性」
- 「領空侵犯圏～連携を実現するためのトリガー」
- 「ヒューマグネット組織～2040年究極の組織はこれだ！」

■ 2020年度 [平均年齢41歳]



■ DXを自分事として考える

2020年、企業の事業環境、働く環境が一変し、DXへの取組みに注目が集まっています。

当コースでは、DXを他人事ではなく、自分事として捉えるために、実際にデジタルツールを使い、職場がこれからどう変わり得るのかを体感する場を設けました。デジタル技術でできるようになったこと、問題になりそうなことを自ら体験し、より複雑になる職場のマネジメントと、ポストコロナ時代に求められるリーダーの役割について意見交換をしました。



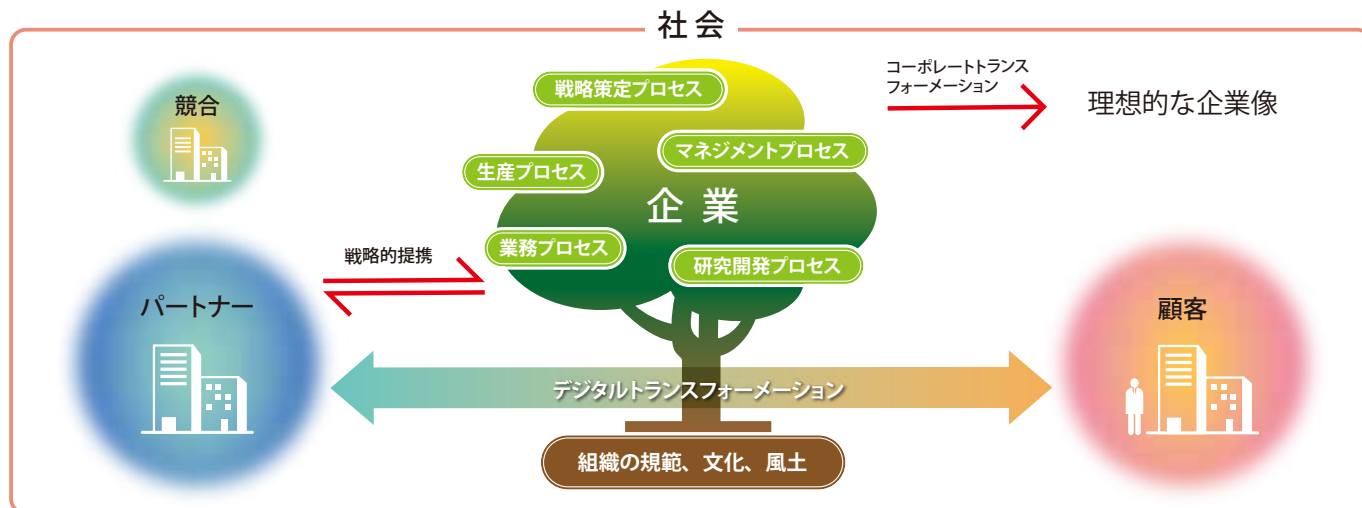
DXワークショップの様子

グループ研究

参加者データ

実践演習

ありたい姿を描き、全体最適の視点で、様々なプロセスを結び付けて変革を推進する



月	テーマ	講義・演習	グループ研究	自己課題
5月	これからの企業経営	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 組織の変革課題</li> <li>■ 経営と教養とアート</li> </ul>		自己課題整理、コース修了後の目標設定
6月	変革の戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 事業変革</li> <li>■ 変革期のリーダーシップ</li> </ul>	<div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; display: inline-block;"> <b>第1回合宿(2泊3日)</b> </div> グループ研究【1-2】 【グループ編成】	
7月	組織変革(マクロ視点)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ビジョンと組織開発</li> <li>■ 組織的コミュニケーション</li> </ul>	【問題意識の共有】 グループ研究【3-4】 テーマ選定・決定	各講義の気づきと学びを整理
8月	組織変革(ミクロ視点)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■モチベーションの理論的裏付け</li> <li>■人の本質に根差したマネジメント</li> </ul>		フィードバックシート提出①
9月	組織の一体化	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 組織間の壁、個人間の溝</li> </ul>	グループ研究【5-9】 文献調査、メンバー・グループ指導講師との徹底した議論	各講義の気づきと学びを整理
10月	全社的目標の達成	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 部分最適を全体最適につなげる仕組み</li> <li>■ 管理会計を軸にしたマネジメント</li> <li>■ 組織構造を支える仕組み(ファイナンスの観点から)</li> </ul>	【中間発表】 グループ研究【10-14】	中間振り返り フィードバックシート提出②
11月	新たな組織像	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 再考 ティール組織</li> <li>■ デジタルトランスフォーメーションの先の組織像</li> </ul>		
12月	個人の活力と変革	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ パラレルキャリア</li> <li>■ 越境学習とは</li> </ul>	グループ研究【15-19】 インタビュー・アンケート調査、仮説検証	各講義の気づきと学びを整理
2022年1月	変革のマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 総括講義</li> </ul>	<div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; display: inline-block;"> <b>第3回合宿(1泊2日)</b> </div> グループ研究【20-23】	
2月	変革の実現に向けて	【グループ研究成果発表】	グループ研究【24-28】 報告書(論文)作成	研修成果の振り返りと業務への落とし込み
秋頃	フォローアップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 研修後の取り組みに関する情報交換</li> </ul>		フィードバックシート提出③

講義：18コマ+選択講義+フォローアップ グループ研究：28コマ

※講義とグループ研究の各コマ数は2020年度実績をもとに表示。プログラムとスケジュールは変更される場合があります。  
 ※経営アカデミーのコースの実施方法について対面・集合が難しい場合に備えて、オンライン(Zoom)にて受講いただけるように、整備を進めています。



先見性・革新性・戦略性で成熟市場を打ち破るマーケティングの養成

# マーケティング戦略コース

対象：マーケティング・営業部門の部長、課長、リーダー、戦略スタッフ

開催日程

時期：2021年6月～2022年2月  
曜日：月曜日【月3～4回】  
時間：18:20～20:50  
合宿：3回  
全日数：35日(合宿込み)  
講義：20コマ、グループ研究：28コマ

コースのねらい

### 1. マーケティング発想力

市場の変化を捉え顧客価値創造のできるマーケティング力・営業力を身につける

### 2. 顧客価値デザイン力

顧客に選ばれる新製品やサービスを開発し、売れる仕組みを創り出す力を磨く

### 3. 主体的革新力

マーケティング企画・営業現場の先頭に立って実践・実行できる力を養う

講師陣

### ■ コース委員長



金井 政明  
良品計画 代表取締役会長

### ■ コーディネーター



石井 淳蔵  
神戸大学・流通科学大学 名誉教授



池尾 恭一  
明治学院大学 教授



古川 一郎  
武蔵野大学 教授

### ■ グループ指導講師



西川 英彦  
法政大学 教授

### ■ グループ指導講師



菌部 靖史  
東洋大学 教授



中川 正悦郎  
成城大学 准教授

石井 淳蔵 神戸大学・流通科学大学 名誉教授

池尾 恭一 明治学院大学 教授

井上 哲浩 慶應義塾大学大学院 教授

沖本裕一郎 ロコガイド 取締役CFO

小野 譲司 青山学院大学 教授

金井 政明 良品計画 代表取締役会長

木村 浩 立正大学 教授

栗木 契 神戸大学大学院 教授

菌部 靖史 東洋大学 教授

竹村 正明 明治大学 教授

中川正悦郎 成城大学 准教授

西川 英彦 法政大学 教授

古川 一郎 武蔵野大学 教授

本庄加代子 東洋学園大学 准教授

松下 光司 中央大学戦略経営研究科 教授

山本 晶 慶應義塾大学大学院 准教授

余田 拓郎 慶應義塾大学大学院 教授

米山 茂美 学習院大学 教授

(過去2年実績)

参加メンバーの声(2019年度)

- 講義では、マーケティングのベースとなる理論から最新の理論まで幅広く学ぶことができた。講義で学んだ内容は、単なるテクニックや表面的な知識の習得にとどまらず、理論の本質的な部分の理解を深めることを目的としており、マーケティングの視点で「思考する力」を身に付けることができたと感じている。(エネルギー)
- 様々な価値観やバックグラウンドをもつ受講者との「協働ワーク」は、最初は意見がぶつかり合うこともあり大変だったが、自身とは異なる様々な視点に触れる機会をもつことができ、視野が広がったこと、また多様な価値観を理解しようとする柔軟性や適応力なども身に付けられたのではないかと感じている。(金融)
- 「グループ研究」を通して、自身で問いを立てる力や最適解を導き出していく思考力を養うことができた。(メーカー)
- 講義は、ケーススタディや各種演習等が多く、学んだ理論を具体的に実務に落とし込んでいく練習を行うことができたため、実践的だった。(サービス)

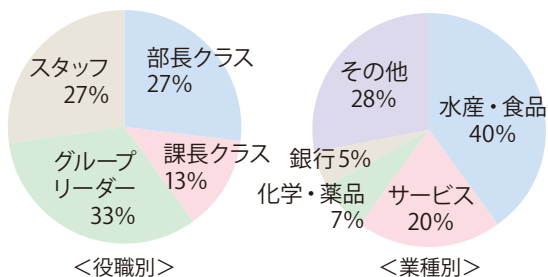
グループ研究

### ■ 2019年度テーマ

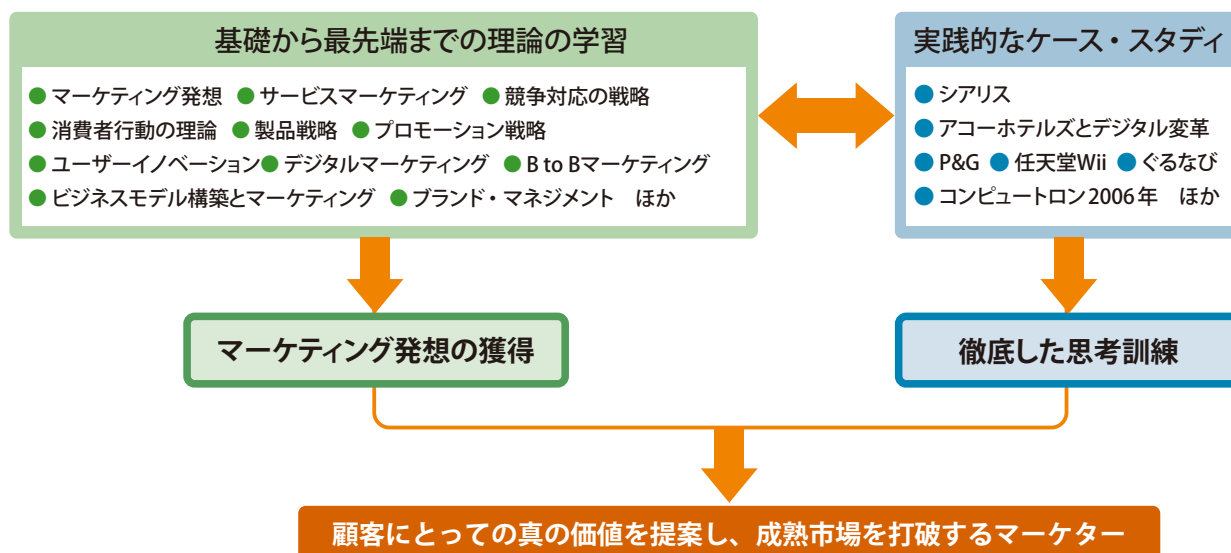
- 「スマートストアにおける買い物価値と購買行動の関係」
- 「マーケティング戦略による持続的イノベーションからの脱却」  
～商品開発と販売チャネル戦略を中心に～
- 「サブスクリプション型ビジネスにおける顧客との継続的な関係構築に関する研究」

参加者データ

### ■ 2020年度 [平均年齢39歳]



顧客にとっての真の価値を創造し、事業を仕組みとしてデザインする力を目指す



月	テーマ	講義・演習	グループ研究	自己課題
6月	マーケティング発想とフレームワークの基本理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ マーケティング発想</li> <li>■ 消費者行動の基礎理論</li> <li>■ 日本型マーケティングの新展開</li> <li>■ プロモーション戦略</li> <li>■ マルチ・サイド・プラットフォーム戦略(ケース・スタディ)</li> </ul>		自己課題整理、コース修了後の目標設定 各講義の気づきと学びを整理
		<b>第1回合宿(2泊3日)</b>	<b>【グループ編成】</b> グループ研究【1-3】	
7月	現代マーケティングの課題と本質	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 競合他社への対抗戦略(ケース・スタディ)</li> <li>■ 成長マーケティング戦略</li> </ul>	グループ研究【4】	各講義の気づきと学びを整理
8月		<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ビジネスモデル構築とマーケティング</li> <li>■ 戦略的交渉のポイント</li> </ul>	グループ研究【5・6】	
9月		<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 製品戦略</li> <li>■ サービスマーケティング(ケース・スタディ)</li> <li>■ 事例研究</li> <li>■ 知覚とマーケティング</li> <li>■ BtoBマーケティング(ケース・スタディ)</li> </ul>	グループ研究【7-11】	フィードバックシート提出①
		<b>第2回合宿(2泊3日)</b>	<b>グループ研究【8-10】</b>	
10月	イノベーションとマーケティング	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ イノベーションと市場創造(ケース・スタディ)</li> <li>■ ユーザーイノベーション</li> </ul>	<b>【中間発表】</b> グループ研究【12・13】	中間振り返り後半への目標設定
11月	実践に向けた変革へのリーダーシップを発揮する	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 事例研究</li> <li>■ コース委員長講話</li> </ul>	グループ研究【14-17】	フィードバックシート提出②
12月				
2022年1月	実務への展開を考える		グループ研究【18-28】	研修成果の振り返りと業務への落としこみ
2月			<b>第3回合宿(1泊2日)</b>	グループ研究【20-24】
		<b>【グループ研究成果発表】</b>	報告書(論文)作成	フィードバックシート提出③
フォローアップ		■ 研修後の取り組みに関する情報交換		

講義：20コマ+選択講義+フォローアップ グループ研究：28コマ

※講義とグループ研究の各コマ数は2020年度実績をもとに表示。プログラムとスケジュールは変更される場合があります。

※経営アカデミーのコースの実施方法について対面・集合が難しい場合に備えて、オンライン(Zoom)にて受講いただけるように、整備を進めています。



現場と経営の観点で、**ありたい姿を描き、「強い工場」をつくる人材の養成**

# 生産革新マネジメントコース

**対象：**生産関連部門（製造、生産管理、品質、調達など）のマネジャー、リーダー

開催日程

時期：2021年5月～2022年2月  
曜日：木曜・金曜日【原則月1回】  
時間：10:00～17:00  
合宿：3回、フィールドワーク1回  
海外調査：1回（アジア地域）※希望者のみ  
全日数：27日（国内合宿込み）  
講義：23コマ、グループ研究：23コマ

コースのねらい

- 1. 工場経営力 デジタル技術が進化する中で、自社のものづくりのありたい姿を描き、具現化する力
- 2. 現場マネジメント力 自社の経営的な問題を発見し、自発的に課題を解決できる現場を構築する力
- 3. 主体的革新力 自社のものづくりのあるべき姿を描き、それに向けてリーダーシップを発揮できる力

講師陣

<p>■ コース委員長</p>  <p>木股 昌俊 フボタ 代表取締役会長</p>	<p>■ コーディネーター</p>  <p>河野 宏和 慶應義塾大学大学院 教授</p>	 <p>平川 保博 東京理科大学 特任副学長</p>
--	---	---

■ グループ指導講師

 <p>坂爪 裕 慶應義塾大学大学院 教授</p>	 <p>伊呂原 隆 上智大学 教授</p>	 <p>稲田 周平 慶應義塾大学 准教授</p>
--	--	---

- 石川 歩 アイル インターナショナル 代表
  - 市来 治 慶應義塾大学大学院 専任講師
  - 稲田 周平 慶應義塾大学 准教授
  - 伊呂原 隆 上智大学 教授
  - 梅崎 修 法政大学 教授
  - 小川 正樹 MEマネジメントサービス 代表取締役
  - 加藤 篤士道 日本生産性本部 主席経営コンサルタント/公認会計士
  - 河野 宏和 慶應義塾大学大学院 教授
  - 坂爪 裕 慶應義塾大学大学院 教授
  - 篠田 心治 成蹊大学 教授
  - 新宅 純二郎 東京大学大学院 教授
  - 芝田 稔子 湯浅コンサルティング コンサルタント (元 日通総合研究所)
  - 丹野 幸敏 アグリゲーター・ジャパン 代表取締役 (元 アマゾン、日本航空)
  - 徳山 誠 プレビス 代表取締役 (元 三菱自動車工業)
  - 平川 保博 東京理科大学 特任副学長
  - 藤野 直明 野村総合研究所 主任研究員
  - 吉沢 昇司 ジーニアスホープ 代表取締役
- (過去2年実績 所属・役職は出講当時)

グループ研究

■ 現場に入り込む  
本コースでは、「現場を見る」経験を重視しており、現場実習(グループ研究)で、実際に現場に入り込み、「強い工場」をつくるための視点を養います。



**生産革新例：**  
「実需起点による清流化」

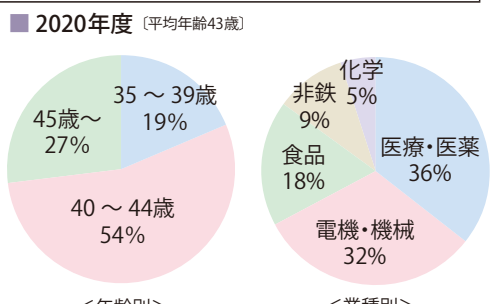
生産計画と実需がマッチングせず、結果的に様々な工程でムダが出ていたA工場を対象に実施。  
→ 全体のものの流れを把握し、上流工程で問題の芽を摘む取組みを実施し、約2,500万円のコスト削減

フィールド・スタディ

■ 異業種の現場から学ぶ  
テーマに沿って他社工場を訪問し、改善活動はもとより、人材育成のねらいや考え方などを伺います。

視察先	国内	ホシザキ、島根富士通、ヤッホーブルーイング、シチズンマシナリー ほか
	海外	タイヤクルト、タイ日産自動車、サイアム・クボタ・コーポレーション、ティービーケーケー・タイランド、ジャトコ・タイランド、ブリヂストン・タイヤ・マニファクチャリング・タイランド、インテージタイ

参加者データ



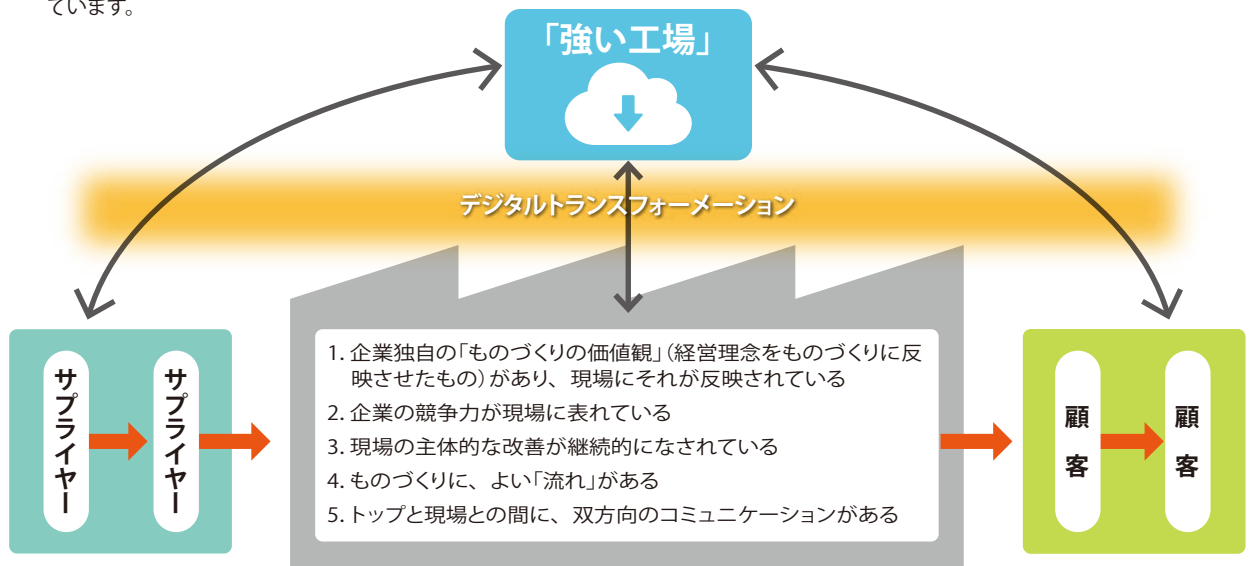
生産革新マネジメントコース



## なぜ企業ごとに競争力の差が生まれてくるのか？

この命題に対して、私たちは50年以上にわたり、ものづくりの観点で、持続的な競争優位について議論してきました。

デジタル技術が進化し、サプライチェーン同士での競争になっている今日においても、地道な改善活動やたゆまぬ生産革新が重要であることは揺るぎません。その上で、本コースでは、次の要素を持つ工場が、長期的な競争力を有する「強い工場」だと考えています。



サプライチェーン全体を見据え、徹底した現場実習(グループ研究)で現場と向き合い、実践力を磨きます

月	テーマ	講義・演習	グループ研究	自己課題
5月	現場と経営の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 企業経営と企業体質</li> <li>■ 現場を活かすグローバル経営</li> </ul>		自己分析 目標設定
6月	デジタル技術と改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 現場のプロセスイノベーション能力</li> <li>■ デジタル技術と改善活動の融合</li> </ul>	グループ編成 <b>フィールドワーク</b>	各講義レポート作成
7月	品質・設備投資	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 設備投資の意思決定</li> <li>■ 品質の作り込み</li> </ul>	仮説構築・現場訪問 オンライン打合せ	<b>フィードバックシート提出①</b>
8月	サプライチェーン	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ よい「ものの流れ」の設計</li> <li>■ 物流戦略</li> </ul>	現状分析・現場訪問 <b>第1回合宿 フィールド・スタディ (他社工場訪問)</b>	
9月	現場力	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ よい「現場」の構築</li> <li>■ 上流工程からの現場改善</li> </ul>	現状分析・現場訪問 ゴールとテーマの設定	
10月	経営理念とものづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 経営理念に基づくものづくり</li> <li>■ 現場が動き出すKPI</li> </ul>	テーマ発表	
11月	グローバル	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 日本の工場の役割</li> <li>■ 世界各国のものづくりの趨勢</li> </ul>	現場訪問・テーマの深堀 <b>第2回合宿 フィールド・スタディ (他社工場訪問)</b>	中間振り返り <b>フィードバックシート提出②</b>
12月	工場の競争力(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ DXの設計とデータ分析</li> <li>■ ものづくりとデジタル技術の最前線</li> </ul>	現場訪問 生産革新提案	
2022年 1月	工場の競争力(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 工場のCSV戦略</li> <li>■ コンプライアンス</li> </ul>	現場訪問 <b>第3回合宿 生産革新提案の検証</b>	
2月	工場の競争力(3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 工場の強みを引き出すリーダー</li> </ul>	効果測定・今後の課題と気づき 報告書(生産革新提案)作成	研修成果の振り返りと 業務への落とし込み <b>フィードバックシート提出③</b>
3月		<b>海外調査(直近実績: タイ)</b>		

講義：23コマ+選択講義+フォローアップ グループ研究：23コマ 工場見学 10社程度(海外調査での視察含む)

※講義とグループ研究の各コマ数は2020年度実績をもとに表示。プログラムとスケジュールは変更される場合があります。

※経営アカデミーのコースの実施方法について対面・集合が難しい場合に備えて、オンライン(Zoom)にて受講いただけるように、整備を進めています。



人材マネジメントに革新を起こし、世界で競争力のある強い組織創りをリードする戦略的人事リーダーの養成

# 人事革新コース

対象：人事部・人材開発部門のマネジャー、リーダー、戦略スタッフ

開催日程

時期：2021年6月～2022年2月  
曜日：木曜日【月2～3回】  
時間：14:00～20:00  
合宿：2回及び海外調査1回  
全日数：35日(合宿込み)  
講義：20コマ、グループ研究：25コマ  
海外調査：グローバルに通用するビジネスリーダー育成の最新事例を学ぶ

コースのねらい

1. 全体構想力 経営環境や社会要請の変化が経営・人材に与えるインパクトを確実に捉え、これからの社会・企業に必要な人材マネジメントのあり方を構想する
2. 戦略思考力 競争優位の源泉として人材を活用し、経営者のパートナーたるべき人事部として経営戦略の展開を支えるための人事戦略を立案する
3. 革新力 現場が最大限の能力を発揮するために、多様なステークホルダーを巻き込みながら、既存の慣習にとらわれず新しい具体的施策を策定し遂行する力を養う

講師陣

### ■ コース委員長



柄澤 康喜  
三井住友海上火災保険  
取締役会長 会長執行役員

### ■ コーディネーター



藤村 博之  
法政大学大学院 教授



守島 基博  
学習院大学 教授



八代 充史  
慶應義塾大学 教授

### ■ グループ指導講師



木村 琢磨  
法政大学 教授

池垣 真里	モルガン・スタンレー・グループ 取締役 人事部長	木谷 宏	県立広島大学大学院 教授 (元ニチレイ 経営企画部長 CIO)	古川 拓馬	トランスストラクチャ ディレクター
梅崎 修	法政大学 教授	鈴木 竜太	神戸大学大学院 教授	松崎 毅	キッコーマン 常務執行委員
太田 直樹	MSD 取締役執行役員 人事部門統括 兼 人事部門長	曾山 哲人	サイバーエージェント 取締役	宮城まり子	キャリア心理学研究所 代表
小木曾泰治	国分グループ本社 取締役 執行役員 人事総務部長	田中 憲一	サントリーホールディングス グローバル人事部長	盛井 恒男	日立ソリューションズ HRテクノロジーセンター 担当部長
鬼丸 朋子	中央大学 教授 本コース グループ指導講師	中島 豊	日本板硝子 執行役員 人事部 統括部長	森田 英一	beyond global Group President & CEO
北崎 茂	PwCコンサルティング ディレクター	服部 泰宏	神戸大学大学院 准教授	山田 久	日本総合研究所 理事

(過去3年実績)

### ■ 2019年度テーマと概要

#### Aグループ イノベーション創出を支える人材マネジメント ～ダイバーシティを真の競争力につなげる!～

日本企業がグローバル競争で優位性を持ち、勝ち抜いていくためには、どのような打ち手が有効なのか。競争優位を構築するための経営戦略であるダイバーシティマネジメントとは何かを整理した上で、企業の重要課題であるイノベーション創出など、価値創造につながる効果的なプロセスを、いくつかのモデルから検証し提言した。

#### Bグループ 企業×社員のキャリア形成二人三脚 ～激動の時代でもミスマッチを起こさないために～

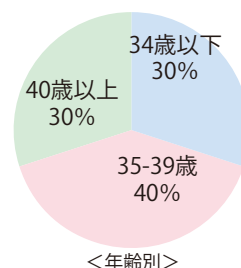
環境変化は企業における人材の不足だけでなく、企業が社員に求める能力やスキルと社員が保有する能力やスキルのギャップをも加速させ、企業内ミスマッチを加速させていく。ミスマッチが発生しないための予防、および発生したミスマッチの解消を図るべく「社員も企業も安心なキャリア支援プログラム」を提案する。

### ■ シンガポール

公的機関や現地進出企業を訪問し、グローバル人材育成・リーダーシップ育成についての具体的な事例を学び、今後の人事戦略策定の革新を目指します。シンガポール政府の人材育成ハブ化構想のもと、世界中から研修機関やビジネススクールが集結し世界のビジネスリーダーシップの中心となっている状況について確認します。今後の世界動向と日本の立ち位置を大きな視野で把握し、課題についてディスカッションします。

過去の訪問先：ダウ、マイクロソフト、P&Gほか

### ■ 2020年度 (平均年齢37歳)



(シンガポールでのワークショップ)

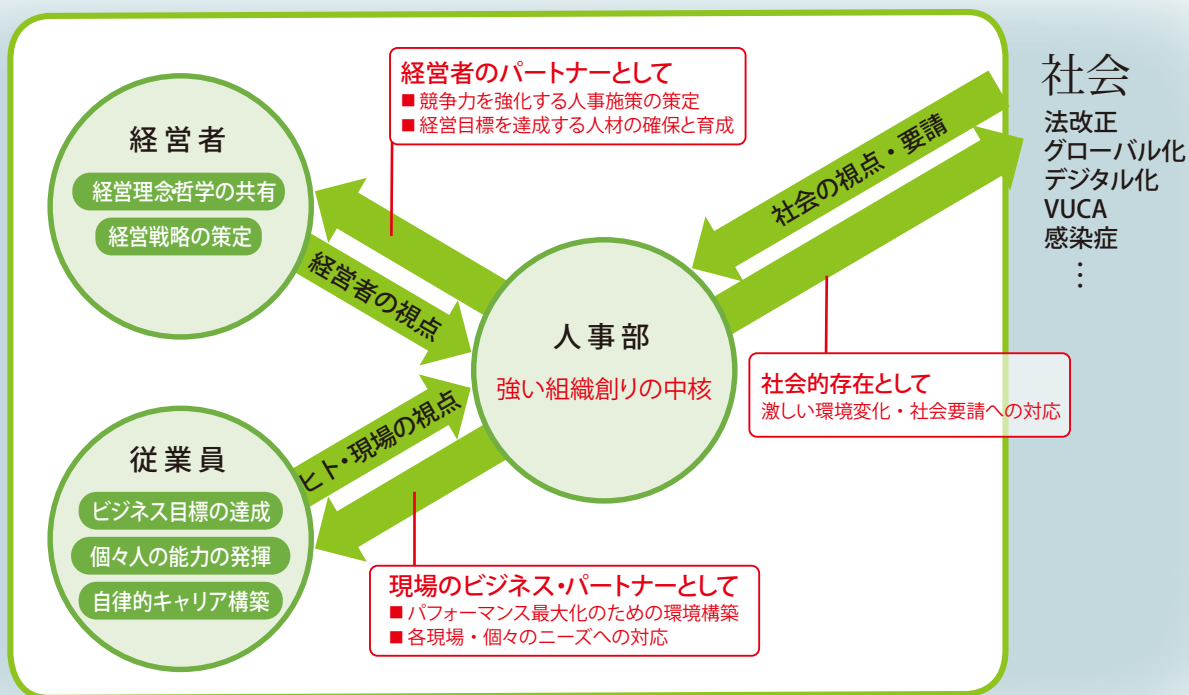
グループ研究

海外調査

参加者データ

# 人事部から革新を！

～人材マネジメントに革新を起こし、競争力のある強い組織を創る～



月	テーマ	講義・演習	グループ研究	自己課題
6月	視野を世界に広げ、新しい潮流を見抜く力	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 人材マネジメントの全体像と課題、人事の役割</li> <li>■ 人事、企業、日本を取り巻く環境と世界の潮流</li> <li>■ 長期的視点、未来志向</li> </ul>	メンバーの課題確認 人事の未来像について 【グループ編成】 グループ研究【1-2】	自己課題整理、コース修了後の目標設定
7月		第1回合宿(1泊2日)	グループ研究【3-6】 【テーマ発表】	フィードバックシート提出①
8月	人材マネジメントの革新	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ダイナミックな労働市場、採用革新</li> <li>■ グローバルリーダー、世界に通用する人材の育成</li> <li>■ ダイバーシティ、働き方改革、組織開発</li> <li>■ キャリア開発、タレントマネジメント</li> <li>■ HR Tech</li> </ul>	グループ研究【7-11】 文献調査、メンバー・グループ指導講師との徹底した議論	中間振り返り
9月		第2回合宿(4泊5日) 海外調査(シンガポール)	グループ研究【12-14】 仮説の設定 リサーチ準備 【中間発表】	フィードバックシート提出②
10月		変化を先読みし、慣習に囚われない先取りの人事施策への挑戦	グループ研究【15-18】 リサーチ実施、仮説検証	各講義の気づきと学びを整理
11月	変革をリードする人事部	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 個々人と向き合い、知の多様性を収斂させながら大きな力に変える</li> <li>■ 世界に競争力のある強い組織創りの中核としての人事部</li> </ul>	第3回合宿(1泊2日)	研修成果の振り返り
12月		総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 総括講義</li> </ul> 【グループ研究成果発表】	グループ研究【21-25】 報告書(論文)作成、発表準備
2022年1月	フォローアップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 研修後の取り組みに関する情報交換</li> </ul>		フィードバックシート提出③
2月	秋			

講義：20コマ＋選択講義＋フォローアップ グループ研究：25コマ

※講義とグループ研究の各コマ数は2020年度実績をもとに表示。プログラムとスケジュールは変更される場合があります。  
 ※経営アカデミーのコースの実施方法について対面・集合が難しい場合に備えて、オンライン(Zoom)にて受講いただけるように、整備を進めています。

# 経営財務コース

対象：財務、経理、IR、リスクマネジメント、企画、管理部門のマネジャー、リーダー

開催日程

時期：2021年6月～12月  
 曜日：木曜日【月3～4回】  
 時間：18:20～20:50  
 合宿：3回  
 全日数：約30日(合宿込み)  
 講義：18コマ、グループ研究：17コマ

コースのねらい

1. 数字に裏打ちされた戦略構想力  
新規事業やM&Aなどの企業戦略を数字の裏付けをもって企画・立案できる力を磨く
2. グループ経営力  
海外子会社のガバナンスのあり方やリスクマネジメントの勘所を掴む
3. ステークホルダーとの対話力  
ファイナンス理論の体系的な理解を通して、市場関係者と適切に対話する力を身につける

講師陣

## ■ コース委員長



柳 良平  
 エーザイ 専務執行役CFO  
 早稲田大学大学院 客員教授

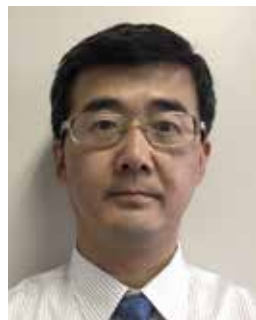
## ■ コーディネーター



薄井 彰  
 早稲田大学 教授



森田 洋  
 横浜国立大学大学院 教授



萩原 統宏  
 明治大学 教授

## ■ グループ指導講師



伊藤 有希  
 横浜国立大学大学院 准教授



石野 雄一 オントラック 代表  
 岩品 信明 TMI総合法律事務所 パートナー・弁護士・税理士  
 大野 弘明 明治学院大学 教授  
 川端 稔 PwCあらた有限責任監査法人 パートナー・公認会計士  
 齋藤 卓爾 慶應義塾大学大学院 准教授  
 村田 守弘 公認会計士・税理士  
 仁科 一彦 大阪大学 名誉教授

村瀬 孝子 鳥飼総合法律事務所 パートナー・弁護士  
 秋葉 賢一 早稲田大学 教授  
 谷川 寧彦 早稲田大学 教授  
 新貝 康司 元日本たばこ産業 代表取締役副社長  
 毛利 正人 東洋大学 教授  
 矢野 貴詳 PwCあらた有限責任監査法人 パートナー・公認会計士  
 吉岡 享 PwCあらた有限責任監査法人 パートナー・公認会計士

(過去5年実績)

## ■ 2019年度テーマと概要

## A グループ

アンケートから探る日本企業の財務活動の実態と企業のパフォーマンスとの関連性

主に上場企業を対象に行った財務活動に関するアンケート結果と企業の財務データ、株価データを基に回帰分析を行い、特徴を見出した。その結果、日本企業ではまだファイナンス理論が普及しているとは言い難いということがアンケート結果より得られた。また、投資家と企業の重視する経営指標が合致していない可能性が確認され、企業が自社の株価を正しく評価されていないと感じる一因となっていることが推察された。

## B グループ

ESGへの取組みは企業パフォーマンスに影響を与えるか？  
 —日本企業の実証分析—

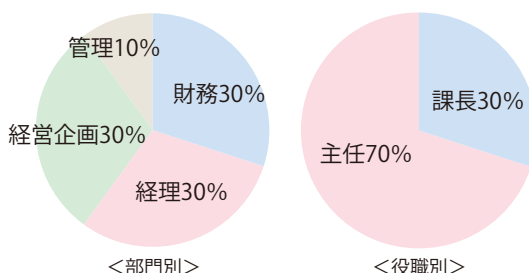
近年、投資先の企業を評価する際に、ESG投資への関心が国内外で高まっており、日本企業によるESGへの取組み状況および企業パフォーマンスの最新情報を用いたパネルデータを用い、統計的に分析した。その結果、財務・市場パフォーマンスに対して業種に関わらず影響を与える要素、及び業種別に影響を与える要素を明らかにすることができた。

参加メンバーの声 (2019年度)

- ESG投資について、これまでほとんど意識していなかったが、単なる地域貢献や広告宣伝活動ではない、企業の持続的成長のために不可欠な活動なのだと気づきを得られた。(情報通信・主任)
- 長期間の研修を通して他社の人材と良好な関係を構築することが出来た。特に同じグループのメンバーとは強い仲間意識が生まれ、業務に関連したところでも情報交換を行い、早速研修の繋がりが生きており、今後もこの繋がりを大切にしていきたいと思う。(食品・主任)

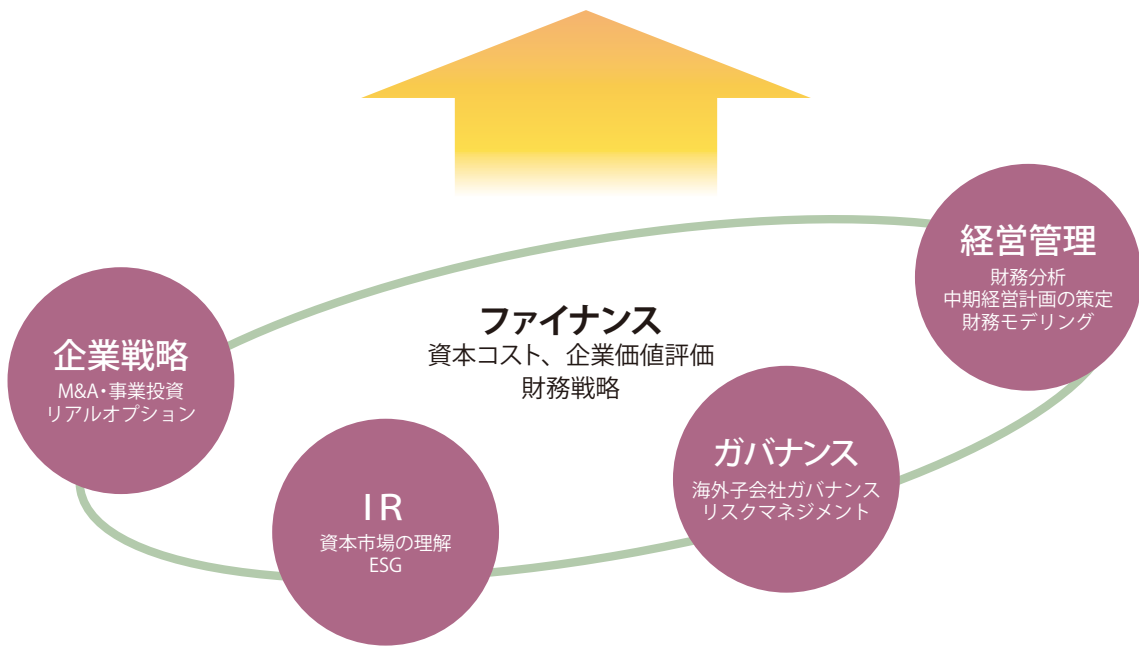
参加者データ

## ■ 2020年度 [平均年齢33.4歳]



ファイナンスを軸に、M&Aや新規事業の投資判断、買収子会社のガバナンスやリスクマネジメント、さらにはESGへの対応などを担うリーダー（CFO候補）を養成します。

企業価値向上を牽引するリーダー（CFO候補）の養成



月	テーマ	講義・演習	グループ研究	自己課題
6月	数字に裏打ちされた構想力を磨く	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ファイナンス理論：基本概念（資本コスト等）</li> <li>■投資評価基準・事業投資</li> </ul>		自己課題整理、コース修了後の目標設定
7月		<div style="border: 1px solid orange; padding: 5px;"> <b>第1回合宿</b> 投資運用 <span style="float: right;">【グループ編成】</span>                      (2泊3日) シミュレーション・ゲーム(資本市場の理解) <span style="float: right;">グループ研究【1-2】</span> </div>		フィードバックシート提出①
8月		<ul style="list-style-type: none"> <li>■財務モデリング・企業価値評価・データサイエンスの基礎</li> <li>■財務戦略(企業価値と資本構成)</li> </ul>	グループ研究【3-6】	
9月	投資家サイドの言葉、考え方を理解する	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ESGと高付加価値経営</li> </ul>	グループ研究【7-8】	各講義の気づきと学びを整理
		<div style="border: 1px solid orange; padding: 5px;"> <b>第2回合宿</b> M&amp;A・財務分析                      (1泊2日) 中期経営計画の策定                 </div>		
10月	企業価値向上の実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>■オプション(リアルオプション)</li> <li>■IFRSの現場と動向</li> </ul>	グループ研究【9-10】 【中間発表】	中間振り返り
11月		<ul style="list-style-type: none"> <li>■海外子会社のガバナンス(リスクマネジメント)</li> <li>■国際税務</li> </ul>	グループ研究【11-12】	フィードバックシート提出②
		<div style="border: 1px solid orange; padding: 5px;"> <b>第3回合宿</b>                      (1泊2日)                 </div>		グループ研究【13-15】
12月	研修成果のとりまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>■総括講義(コーポレートガバナンスとROE)</li> </ul>	グループ研究【16-17】 報告書(論文)作成、発表準備	研究成果の振り返り
	フォローアップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>■研修後の取り組みに関する情報交換</li> </ul>		フィードバックシート提出③

講義：18コマ＋選択講義＋フォローアップ グループ研究：17コマ

※講義とグループ研究の各コマ数は2020年度実績をもとに表示。プログラムとスケジュールは変更される場合があります。  
 ※経営アカデミーのコースの実施方法について対面・集合が難しい場合に備えて、オンライン(Zoom)にて受講いただけるように、整備を進めています。



トップや現場を巻き込みながら変革に邁進する中核リーダーの養成

# 事業変革イノベーションコース

経営共創基盤  
協力プログラム

対象：事業責任者(執行役員、部長、マネジャー)、企画・グループ管理・監査部門の責任者、戦略スタッフなど

開催日程

時期：2021年6月～12月  
【月2～3回】  
時間：18:20～20:50  
合宿：2回  
全日数：20日(合宿込み)  
講義：18コマ

コースのねらい

- 1. 事業実態分析力 担当事業及び全社が置かれた現状を正しく理解し、戦略の策定につなぐ力を身につける
- 2. 収益構造管理力 事業構造と収益構造の関係を理解し、自社にふさわしい管理会計、コスト管理のあり方を考える力を身につける
- 3. 意思決定と戦略構築力 価値創造の観点から自社事業群を適切に評価し、成長を加速させる取り組みを構築する力を身につける
- 4. 組織を動かす力 組織のしがらみに打ち克ち、自らがリーダーとして変革の波を組織内に起こしていく力を身につける

講師陣

## コーディネーター



木村 尚敬

経営共創基盤(IGPI)  
共同経営者(パートナー)  
マネージングディレクター

ベンチャー企業経営の後、日本NCR、タワーズペリン、ADLなどにおいて事業戦略策定や経営管理体制の構築などの案件に従事。IGPI参画後は全社経営改革(事業再編・中長期戦略・管理体制整備・財務戦略等)や事業強化(成長戦略・新規事業開発・M&A等)など、様々なステージにおける戦略策定と実行支援を推進。

## 経営者対話 講演者 (過去5年実績・役職名当時)

- 嘉悦 朗 横浜マリノス 代表取締役社長
- 木川 眞 ヤマトホールディングス 代表取締役会長
- 酒巻 久 キヤノン電子 代表取締役社長
- 新貝 康司 元日本たばこ産業 代表取締役副社長
- 知識 賢治 前日本交通 代表取締役社長
- 野路 國夫 小松製作所 取締役会長
- 松井 忠三 松井オフィス 代表取締役社長(良品計画 前会長)



富山 和彦

経営共創基盤(IGPI)  
IGPIグループ会長



浜村 伸二

経営共創基盤(IGPI)  
共同経営者(パートナー)  
マネージングディレクター



児玉 尚剛

経営共創基盤(IGPI)  
共同経営者(パートナー)  
マネージングディレクター



古澤 利成

経営共創基盤(IGPI)  
ものづくり戦略カンパニー  
マネージングディレクター



石野 雄一

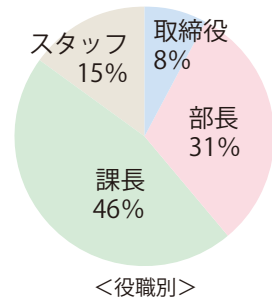
オントラック 代表

- リーダーとしての振舞いや心構えなど、具体的に知ることができ有意義だった。(情報通信・課長)
- 社内の上位者に対して、今後いかに自分の正義を貫けるか?いかにして貫くか?を考えることができました。(サービス・部長)
- 経営者の経験や心構えなど、リアリティのある話で心に響きました。(小売・執行役員)
- 変革に妥協しない熱量を維持し、メンバーと共有していきたいと思えます。(運輸・部長)



参加者データ

2020年度 (平均年齢43.1歳)

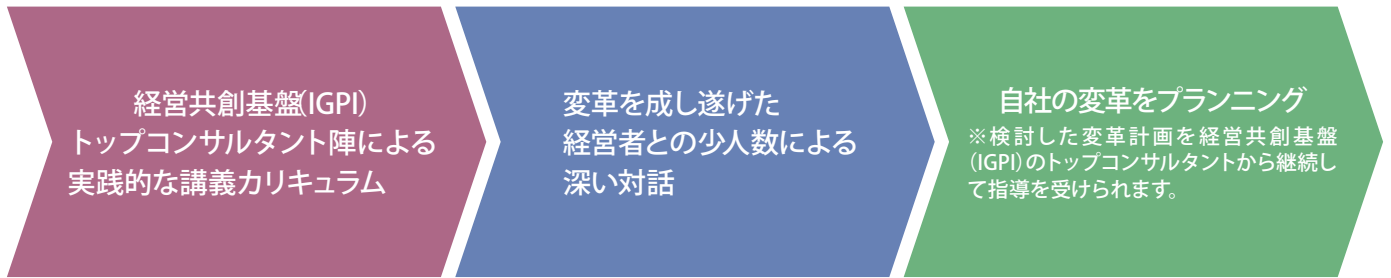


事業変革イノベーションコース

参加メンバーの声 (2020年度)

実例をもとにしたリアルな講義と議論から学び、  
自社の変革やイノベーションをリードする実践的なスキルを身につける

事業変革・イノベーションの実践



月	テーマ	講義・演習	個人研究
6月	企業変革の全体像 戦略と事業の分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加企業各社の課題共有</li> <li>事業戦略概論 対象事業について正しい現状認識を踏まえ、変革に向けた戦略を考え、立案する上で拠り所となる基本的な知識を得る</li> <li>ビジネスエコノミクスの理解 戦略を構築する上で重要なポイントである事業構造、収益構造のメカニズムを体系的に理解する</li> </ul>	変革計画 の作成／各講義の気づきと学びの整理
7月	企業価値向上に必要な知識、方法論の習得	<ul style="list-style-type: none"> <li>コストアカウンティング／マネジリアル・アカウンティングの理解 収益構造を数字の面から理解する。特に事業構造と収益構造がどのように結びつか、それらが財務3表にどう表現されるかをとらえる視点を養う。さらに、収益構造を決定づけるコストの管理手法を学ぶ</li> </ul>	
8月		<ul style="list-style-type: none"> <li>コーポレートファイナンス、バリュエーションの理解 事業分析を踏まえ、事業そのものが持っている企業価値を算出する。資本コストを把握し、事業の効率性と収益性を評価する目を養う</li> </ul>	
9月	変革のリアリティに触れる①	<ul style="list-style-type: none"> <li>M&amp;Aの実際と課題 事業ポートフォリオの観点からM&amp;Aの本質、課題などについて事例を通じて学ぶ</li> <li>【経営者対話①】 変革を成し遂げた経営トップからの講義とメンバーとの討議</li> </ul>	
10月	ケース演習 変革のリアリティに触れる②	<ul style="list-style-type: none"> <li>変革事例のケース演習&lt;ロールプレイング&gt; 実際に起きた企業の事例を用い、変革の場面において、経営者の役割や意思決定のあり方を疑似体験し、経営の舵取りの難しさや乗り越えるべきポイントなどを考える</li> <li>【経営者対話②】 変革を成し遂げた経営トップからの講義とメンバーとの討議</li> </ul>	
11月	ケース研究(グループ研究)	<ul style="list-style-type: none"> <li>【経営者対話③】 変革を成し遂げた経営トップからの講義とメンバーとの討議</li> <li>事業構造転換と成長戦略 事業成長のパターンや新規事業創出のポイントについて理解を深める</li> <li>ミドル・リーダーシップ</li> <li>事業構造分析演習(リアルケースによる課題検討・議論)</li> </ul>	
12月	総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>総括講義、グループとしての成果発表とりまとめ</li> <li>個人研究とりまとめ、最終成果発表(グループとしての学び)</li> </ul>	
	フォローアップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修後の取り組みに関する情報交換</li> </ul>	

講義：18コマ+選択講義+フォローアップ

※講義とグループ研究の各コマ数は2020年度実績をもとに表示。プログラムとスケジュールは変更される場合があります。  
※経営アカデミーのコースの実施方法について対面・集合が難しい場合に備えて、オンライン(Zoom)にて受講いただけるように、整備を進めています。

## イノベーション・デザインコース

対象：中堅・若手リーダー

開催日程

時期：2021年4月23日(金)～7月17日(土)  
 曜日：隔週 全16日  
 時間：9:30～17:00  
 合宿：2回(5月14日・15日、6月11日・12日)  
 全日数：講義・ワークショップ17コマ、テーマ研究16コマ

コースのねらい

1. 善い目的を持ち自ら変革できる力の醸成
2. バイアスを特定し再構築する能力の育成
3. 課題解決に向け事業構想する能力の養成

講師陣

## ■ 顧問



新貝 康司

日本たばこ産業  
元代表取締役 副社長

## ■ コーディネーター



小笠原 敦

滋賀医科大学 バイオメディカル・  
イノベーションセンター  
特任教授



東 信和

アイディアポイント  
取締役 チーフイノベーションオフィサー



水谷 世希

日立コンサルティング  
サービス & デジタルコンサルティング本部  
テクニカルディレクター



中村 善貞

富士フイルム  
R&D 統括本部  
イノベーション アーキテクト

テーマ研究

## テーマ検討要件

1. わたくしごととして真剣に取り組めるまでメンバーで議論する
2. 近未来に大きな影響を及ぼす社会問題からバックキャストし、今やるべきこと、やりたいことに挑戦する
3. ライフスタイル及び企業経営に大きな影響のあるテクノロジーを考慮する

## ■ 2020年度受講 第9期生のテーマ

## Aチーム：「MUGEN∞バーガー～海藻のチカラでProtein Safety～」

大豆と同レベルのタンパク質含有量を持つ海藻を効率的に生産し、世界人口増加による動物性たんぱく質の大幅な不足に 대응

## Bチーム：「すべての人に持続可能な運動を～寝ながらロナウド～」

運動不足による生活習慣病疾患を抑えるため、様々な理由で運動出来ない人々に、寝ている間に無理なく運動できるアイデアを提案

## Cチーム：「家庭の食材手配から調理までを一括管理～食品ロス「ゼロ」への革命」

「買いすぎない」、「食べ残さない」、「可食部を捨てない」ことによる食品ロス低減への提案

## Dチーム：「Quality of 2nd Life～第2の人生も食を通じてみんなで元気に楽しく～」

栄養が偏りがちな独居高齢者に、栄養バランスの良い食事と楽しい場を提供し、カラダとココロの質の向上を目指すアイデアを提案



参加メンバーの声 2019年度

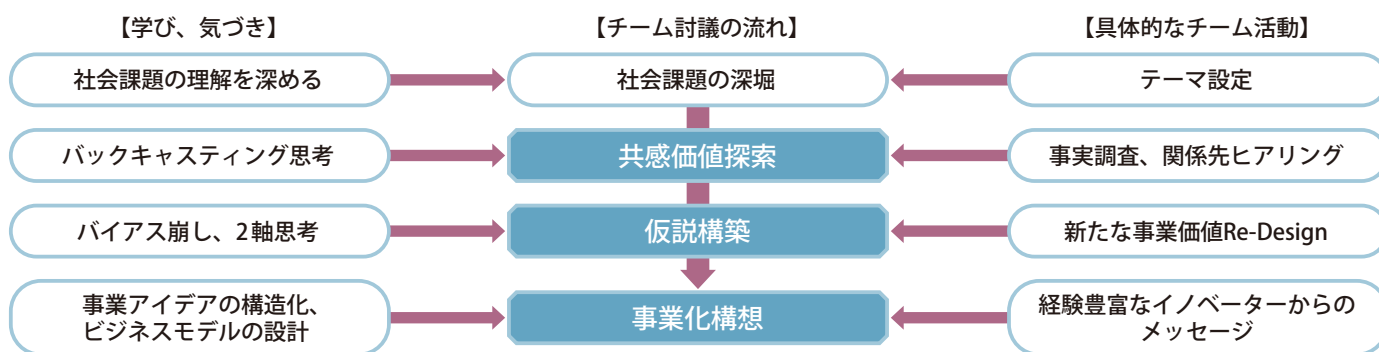
## 第9期生の声（アンケートより）

「受講による意識の変化、行動変容」

- リコー UM さん 「日頃の業務も社会課題との繋がりを示すようになった」
- 雪印メグミルク OA さん 「社会課題はビジネスの手法を用いるからこそ解決できると考えるようになった」
- 花王 KK さん 「商品開発を改良点のみ考えるのではなく、別の要素、別の角度から考えるようになった」
- 花王 HM さん 「オンライン受講を体験し、今後、育児や介護をしながら受講するハードルが下がると感じました」
- 日立ハイテク MJ さん 「イノベーションの考え方は、既存事業のマネジメント業務とは全く異なると実感した」
- ライオン MS さん 「自身の業務について考え直す切っ掛けになった。また、自身の専門とは何か考えるようになった」
- 日立製作所 KY さん 「正解がない世界では、信念を持ち、ブレずに進み、その上既存事業以上の本気度が問われる」



## プログラム概要



## 日程概要 2021年4月23日(金)～7月17日(土)

No.	月 日	9:30	12:30	13:30	17:00
1	2021年 4月23日(金)	開講オリエンテーション		「課題図書の問題提起」「バックキャスト思考」	交流会
2	4月24日(土)	II ヒト・コト・モノの関係性をRe-Designする 「イノベーションの発想法 (講義) / イノベーションの発想法 (ワークショップ)」			
3	5月14日(金)	I 善い目的を持つ チームの課題設定ワークショップ		テーマ研究①「テーマ設定討議」	
4	5月15日(土)	テーマ研究②「テーマ設定討議」		テーマ研究③「テーマ発表」& ヒアリング先検討	
5	5月28日(金)	II ヒト・コト・モノの関係性をRe-Designする		テーマ研究④	
6	5月29日(土)	III アイデアの具体化、事業化に向けて 「メガトレンドの読み方」		テーマ研究⑤	
7	6月3日(木)	IV イノベーションの実践 「AIを用いた社会課題解決」		テーマ研究⑥	
8	6月4日(金)	I 善い目的を持つ 「大企業の両利き経営」		テーマ研究⑦	
9	6月11日(金)	II ヒト・コト・モノの関係性をRe-Designする 「テーマ深堀」(WS) / テーマ研究⑧			交流会
10	6月12日(土)	テーマ研究⑨「中間発表準備」		テーマ研究⑩「中間発表」	
11	6月24日(木)	IV イノベーションの実践 「食の未来と革新的植物工場の事業化」		テーマ研究⑪	
12	6月25日(金)	II ヒト・コト・モノの関係性をRe-Designする 「行為のデザイン」		テーマ研究⑫「アイデアのバグ取り」(WS)	
13	7月8日(木)	III アイデアの事業化に向けて 「他社を巻き込む魅力づくりと収益化構想」		テーマ研究⑬	
14	7月9日(金)	III アイデアの事業化に向けて 「新規事業立ち上げ ～イノベーションの実践」		テーマ研究⑭	
15	7月16日(金)	IV イノベーションの実践 「イノベーションと社内コミュニケーション& 説得のプレゼン」		テーマ研究⑮	
16	7月17日(土)	テーマ研究⑯「プレゼン準備」		最終発表会 / 修了式	終講懇親会

※講義とグループ研究の各コマ数は2020年度実績をもとに表示。プログラムとスケジュールは変更される場合があります。

※経営アカデミーのコースの実施方法について対面・集合が難しい場合に備えて、オンライン(Zoom)にて受講いただけるように、整備を進めています。

## 修了後も続くネットワークと学びの場

### ■ 修了後のフォローアッププログラム

経営アカデミーのプログラムによって得られた成果を自社での業務に活かしていくために、終講時に自らの次なる達成課題を設定。修了の半年後を目安に、コース毎に参加者が集まり、指導講師を交え、自らの課題への取り組みについて進捗を報告、意見交換を行ったり、新しい知見を習得したりします。学びの成果の自社での展開について、さらに効果的な取り組みへの気づきの場となります。

### ■ OB・OG会

グループ単位で継続的に開催されるOB・OG会だけでなく、コース全体や年度を越えた同じグループ研究担当講師を囲む会など、メンバーによる情報交換・事例共有の場として事務局がその開催・運営をサポートしてまいります。



1998年度「人事労務コース（現・人事革新コース）」  
OB・OG会の様子（2018年7月、指導講師宅にて）  
「合宿の帰りに温泉に寄ったよね。」「20周年記念で、またみんなで旅行しようよ。」

### ■ 講演会・情報交換会



講演会へのご招待、各種優待講座・イベント等、経営アカデミー修了後も最新の知識・情報を吸収するためのサポート体制を整えております。

経営の第一線で活躍されるOB・OGや専門領域における第一人者として高い能力を発揮されているOB・OGを招き、修了メンバー相互に研鑽を深める場を提供してまいります。

2018年9月の講演会には、1998年度「人事労務コース（現・人事革新コース）」修了者が登壇（オリエンタルランド 中村浩司氏、コニカミノルタ 米浪誠氏、中外製薬 後藤仁道氏）

### ■ マスター・プログラム

当アカデミーを修了された後、「さらに自己研鑽を積める場を持っておきたい」「もう一度、この講義を聞いてみたい」といったOB・OGの声にお応えするために、経営アカデミーの各コースより選び抜いた指定講義からご希望に合わせて選択し、受講していただくプログラムです。

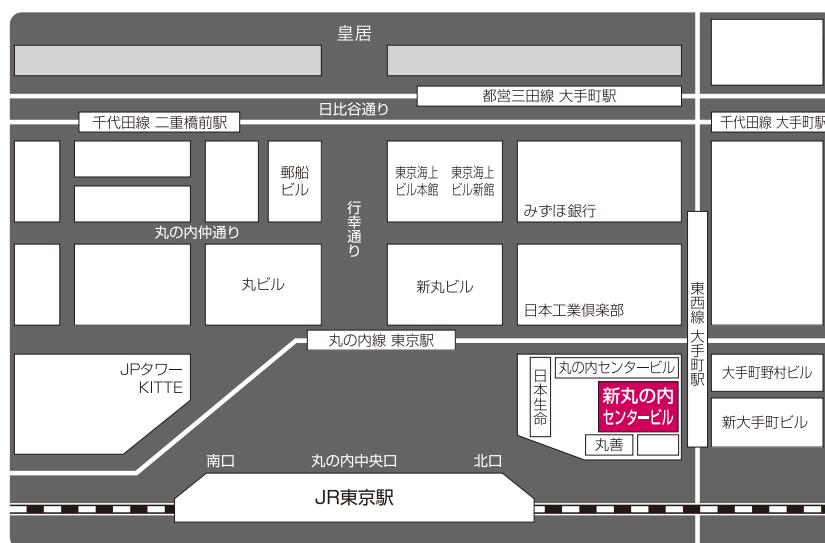
現在直面している経営課題、担当業務における問題意識に沿って、各コースで開催される講座を横断的に自由に選択し、組み合わせることで、ご自身のオリジナルプログラムを作成して受講することができます。

経営に関する幅広い領域における基礎理論や最先端理論をはじめ、現役経営トップからのリアルな語りに触れ、現在の自己、自社ビジネス・経営のあり方について、もう一度深く考えるきっかけをお持ちいただけます。

# ご派遣企業一覧

経営アカデミーの活動趣旨にご賛同いただき、多くの企業より、その将来を担う中核人材を継続的にご派遣いただいております。

水産・食品	アサヒグループHD/アサヒビール	化学	メルテックス	機器 電気	ルネサスエスビードライバ	小売・卸売・商業	サンゲツ
	キッコーマン		ライオン		ルネサスエレクトロニクス		高島屋
	キッコーマン食品		ロート製薬		IHI		東京産業
	キッコーマンソイフーズ		出光興産		総合車両製作所		野原産業
	麒麟ビバレッジ		コスモエネルギーHD/コスモ石油		日産自動車		白銅
	合同酒精		ENEOS HD/ENEOS		日本プラスト		フロンティア
	なとり		加貫ローラ製作所		日野自動車		松屋
	日清オイリオグループ		住友大阪セメント		NECディスプレイソリューションズ		三井物産
	日清製粉グループ本社		太平洋セメント		オリンパス		八洲電機
	日本たばこ産業		デイ・シイ		コマツ		ヤマシタコーポレーション
建設・土木	日本水産	ゴム・ガラス・土石製品	TOTO	精密機器	ジーエルサイエンス	放送・広告	山星屋
	日本ハム		バンドー化学		シスメックス		リックス
	マルハニチロ		ブリヂストン		シチズン時計		良品計画
	明治		前田製管		シード		クリエイト
	メディカルフードサービス		コベルコ鋼管		テルモ		博展
	森永製菓		サンエツ金属		東京精工		オリックス生命保険
	森永乳業		JFEスチール		日東電工		埼玉りそな銀行
	ヤッホーブルーイング		住友金属鉱山		日本結晶光学		J A三井リース
	雪印メグミルク		住友電気工業		マースウィンテック		ジェーシービー
	理研ビタミン		大同特殊鋼		ミットヨ		商工組合中央金庫
繊維・紙	水ing	鉄鋼・非鉄金属	東京鋼鐵	その他製造	アルケア	金融	信金中央金庫
	竹中工務店		日本軽金属		村田製作所		東京センチュリー
	東亜建設工業		古河電気工業		エアウィーヴ		東邦銀行
	戸田建設		三井金属鉱業		エムジー		日本政策金融公庫
	巴コーポレーション		UACJ		廣済堂		日本レコード・キーピング・ネットワーク
	日本電業工作		YKK		竹虎		農林中央金庫
	三井住建道路		IHI物流産業システム		東タイ		播州信用金庫
	三井住友建設		アーレスティ		凸版印刷		富国生命保険
	ヤマト		アルファ		ヤマハ		みずほフィナンシャルグループ/みずほ銀行
	東レ		石垣		電源開発		三井住友海上火災保険
パルプ・紙	日本毛織	機械	ANA成田エアポートサービス	電機・ガス	ANA HD/全日本空輸	不動産	三菱UFJ銀行
	日本製紙		クボタ		カンダホールディングス		三菱UFJニコス
	ホギメディカル		栗田工業		シンクラン		りそな銀行
	北越コーポレーション		小松製作所		東京地下鉄		穴吹エンタープライズ
	旭化成		サンデンHD		日本通運		穴吹興産
	エーザイ		ソディック		石油輸送		あなぶき興産九州
	花王		タダノ		東日本旅客鉄道		あなぶき不動産流通
	関西ペイント		TBK		日立物流		NTT都市開発
	関東電化工業		西島製作所		ベガサスグローバルエクスプレス		大京
	キョーリン製薬HD/杏林製薬		鍋屋バイテック会社		ヤマト運輸		大京アステージ
化学	クラレ	電気機器	ロジメディカル	運輸・倉庫	AGS	サービス	東京ガス都市開発
	クレハ		丸山製作所		SAPジャパン		日本工営
	三和サインワークス		明治電機工業		NECエンジニアリング		三菱地所
	生化学工業		湯山製作所		NECソリューションイノベータ		山万
	大幸薬品		アズビル		NECネットエスアイ		アイム環境ビル管理
	高田香料		大崎電気工業		NTTコムウェア		穴吹ハウジングサービス
	タキロンシーアイ		オムロンフィールドエンジニアリング		NTTドコモ		池上長寿園
	竹本容器		キャノン電子		カスタマシステム		エイチアンドアールコンサルタンツ
	中外製薬		キャノンプレジジョン		KDDI		NTT都市開発ビルサービス
	DIC		共和電業		シスコシステムズ		オリエンタルランド
化学	東北パイオニア	情報・通信	日鉄ソリューションズ	情報・通信	ディックソリューションエンジニアリング	情報・通信	JFEライフ
	鳥居薬品		東京エレクトロン		テックスエンジソリューションズ		JTB
	日本色材工業研究所		東光高岳		日本ユニシス		J ECC
	日本ゼオン		日本電気		ハマゴムエイコム		ジャノメクレディア
	日本サーファクタント工業		日本信号		BFT		スーパーホテル
	日本食品分析センター		パナソニック		東日本電信電話		TDKサービス
	日本製薬		日置電機		日立システムズ		図書館流通センター
	日本ポリケム		日立製作所		富士ソフト		日本郵政
	バイエルクロップサイエンス		富士通		富士通エフサス		乃村工藝社
	藤倉化成		富士通アドバンステクノロジー		岩谷産業		パシフィックコンサルタンツグループ
化学	富士フイルム	小売・卸売・商業	オートボックスセブン	小売・卸売・商業	サニーヘルス	小売・卸売・商業	マネジментソリューションズ
	藤森工業		リコー		ユニー・エス・エス		みらかHD
	ホーユー						メンテックカンザイ
	マサル機工						ユー・エス・エス
	三菱ケミカル						横河シタ・リース



## 経営アカデミー

〒100-0005 東京都千代田区丸の内 1-6-2 新丸の内センタービル6階

TEL : 03-5221-8455 FAX : 03-5221-8479

<https://k-academy.jp/>

E-mail: [academy\\_info@jpc-net.jp](mailto:academy_info@jpc-net.jp)



公益財団法人 日本生産性本部